上原横穴墓群 II

—一般国道10号線中津バイパス建設文化財発掘調査報告書(2)

1992年3月

大分県教育委員会

上ノ原横穴墓群 Ⅱ

一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

1991年3月

大分県教育委員会

例　言

1．本書は一般国道10号線中津バイパス建設に伴う事前調査のうち昭和55年から昭和60年まで調査した下毛郡三光村上ノ原横穴墓群の発掘調査報告書の遺構・遺物編Ⅱおよび考察編である。
2．調査は建設省九州地方建設局大分工事事務所の委託事業として大分県教育委員会が実施した。
3．本書の執筆はⅢ遺構については調査担当者のうち土層観察を主にした者が、人骨についての記述は九州大学医学部第二解剖学教室土肥直美助手、同文学部文化史研究室比較考古学部門田中良之助教授に依頼した。なおⅣ考察編の執筆には田中・土肥氏以外に粉川昭平（大阪市立大学名誉教授）、千田昇（大分大学教授）、小田一幸（九州大学助手）、三辻利一（奈良教育大学教授）、小池裕子（埼玉大学助教授）、後藤宗俊（別府大学教授）、山田拓伸（県立宇佐歴史民俗資料館）、の諸先生に玉稿を賜わった。また、遺構、考察ともに文末、文頭に名前を記し責任を明記した。なお、サマリーについては、ケンブリッジ大学博士課程溝口孝司氏に一部依頼した。
4．本書の編集は渋谷・村上・田中・土肥・吉留が協議し、主として村上が吉武の協力を得て行った。

本文目次

Ⅲ．上ノ原横穴墓群の調査

41号横穴墓……1
42号横穴墓……6
43号横穴墓……8
44号横穴墓……31
45号横穴墓……36
46号横穴墓……45
47号横穴墓……49
48号横穴墓……64
49号横穴墓……69
50号横穴墓……76
51号横穴墓……80
2号石蓋土壙墓……97
52号横穴墓……98
53号横穴墓……102
54号横穴墓……109
55号横穴墓……133
56号横穴墓……154
57号横穴墓……159
58号横穴墓……167
59号横穴墓……170
60号横穴墓……184
61号横穴墓……187
62号横穴墓……198
63号横穴墓……208
64号横穴墓……214
65号横穴墓……229
66号横穴墓……237
67号横穴墓……240
68号横穴墓……251
69号横穴墓……273
70号横穴墓……283

71号横穴墓…… 287
72号横穴墓…… 295
73号横穴墓…… 297
74号横穴墓…… 300
75号横穴墓…… 304
76号横穴墓…… 306
77号横穴墓…… 309
78号横穴墓…… 311
79号横穴墓…… 319
80号横穴墓…… 321
81号横穴墓…… 337
1・2号溝…… 345
Ⅳ．考察…… 376
1．中津平野の地形…… 376
2．遺構…… 385
(1) 横穴墓の時期と形態変遷…… 385
(2) 横穴墓の時期と分布の特徴…… 387
(3) 工具痕から見た横穴墓の堀削具について…… 391
3．遺物…… 395
(1) 装身具…… 395
(ア) 貝輪－古墳時代に於ける九州出土の貝輪－…… 395
(イ) 銅釧－古墳時代に於ける九州出土の銅釧－…… 406
(ウ) 上ノ原横穴墓群出土の玉類…… 408
(2) 鉄器…… 415
(ア) 刀装具の銀象嵌装飾文様について…… 415
(イ) 51号横穴墓出土の圭頭太刀とその佩用金具について…… 419
(ウ) 鉄鏃の形式分類と出土状態について…… 421
(エ) 金属製品の保存処理について…… 425
(3) 土器…… 427
(ア) 須恵器・土師器の編年…… 427
(イ) 特殊な土器について…… 432
(ウ) 土器のヘラ記号について…… 434
(エ) 土器の蛍光ｘ線分析について…… 444
(4) 自然遺物…… 460

(ア) 炭化植物の同定について…… 460
(イ) 炭化材の樹種同定について…… 461
4．人骨…… 467
(1) 上ノ原横穴墓出土の古墳時代人骨について…… 467
(2) 上ノ原横穴墓群出土人骨のδ^{13}C測定による食性分析…… 484
5．総括…… 488
(1) 上ノ原横穴墓群被葬者の親族構造…… 488
(2) 上ノ原横穴墓群における武器所有形態による階層変遷…… 509
(3) 上ノ原横穴墓群における葬送儀礼の諸相…… 510
(4) 上ノ原横穴墓群被葬者の集団関係…… 515
(5) 上ノ原墳墓群の変遷…… 519
(6) 上ノ原横穴墓群の保存をめぐって…… 522
(7) 上ノ原台地周辺の集落・耕地・墓地の変遷…… 523
6．附編…… 528
(1) 大分県の横穴墓…… 528
(2) 大宝二年豊前国上三毛郡塔里戸籍について…… 533
SUMMARY

挿図目次

第237図　41号横穴墓周辺平面図 …… 1
第238図　41号横穴墓平・断面図 …… 2
第239図　41号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 3
第240図　41号横穴墓出土遺物実測図 …… 4
第241図　42号横穴墓平・断面図 …… 7
第242図　42号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 8
第243図　42号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 9
第244図　42号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 10
第245図　42号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 11
第246図　42号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 12
第247図　42号横穴墓出土遺物実測図(4) …… 13
第248図　43号横穴墓平・断面図 …… 19
第249図　43号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 20
第250図　43号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 21
第251図　43号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 22
第252図　43号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 23
第253図　43号横穴墓出土遺物実測図(4) …… 24
第254図　43号横穴墓出土遺物実測図(5) …… 25
第255図　43号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 26
第256図　44号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 31
第257図　44号横穴墓平・断面図 …… 32
第258図　44号横穴墓出土遺物実測図 …… 34
第259図　45号横穴墓周辺平面図 …… 36
第260図　45号横穴墓平・断面図 …… 37
第261図　45号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 38
第262図　45号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 40
第263図　45号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 41
第264図　45号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 42
第265図　46号横穴墓縦断土層図 …… 45
第266図　46号横穴墓平・断面図 …… 46
第267図　46号横穴墓出土遺物実測図 …… 47
第268図　47号横穴墓平・断面図 …… 50
第269図　47号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 52
第270図　47号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 53
第271図　47号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 54
第272図　47号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 55
第273図　47号横穴墓出土遺物実測図(4) …… 56
第274図　47号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 57
第275図　48号横穴墓縦断土層図 …… 64
第276図　48号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態 …… 65

第277図　48号横穴墓平・断面図 ……66
第278図　48号横穴墓出土遺物実測図 ……67
第279図　49号横穴墓周辺平面図 ……69
第280図　49号横穴墓平・断面図 ……70
第281図　49号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 ……71
第282図　49号横穴墓出土遺物実測図(1) ……72
第283図　49号横穴墓出土遺物実測図(2) ……73
第284図　49号横穴墓出土土器ヘラ記号 ……75
第285図　50号横穴墓縦断土層図 ……76
第286図　50号横穴墓平・断面図 ……77
第287図　50号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態 ……78
第288図　50号横穴墓出土遺物実測図 ……78
第289図　51号横穴墓平・断面図 ……81
第290図　51号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 ……82
第291図　51号横穴墓出土遺物実測図(1) ……84
第292図　51号横穴墓出土遺物実測図(2) ……85
第293図　51号横穴墓出土遺物実測図(3) ……86
第294図　51号横穴墓出土遺物実測図(4) ……87
第295図　51号横穴墓出土遺物実測図(5) ……88
第296図　51号横穴墓出土遺物実測図(6) ……89
第297図　51号横穴墓出土土器ヘラ記号 ……90
第298図　2号石蓋土壙墓平・断面図 ……97
第299図　52号横穴墓縦断土層図 ……98
第300図　52号横穴墓平・断面図 ……99
第301図　52号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態 ……101
第302図　53号横穴墓平・断面図 ……103
第303図　53号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 ……104
第304図　同出土土器ヘラ記号 ……105
第305図　53号横穴墓出土遺物実測図(1) ……106
第306図　53号横穴墓出土遺物実測図(2) ……107
第307図　54・55号横穴墓周辺平面図 ……109
第308図　54号横穴墓平・断面図 ……111
第309図　54号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 ……113
第310図　54号横穴墓出土遺物実測図(1) ……114
第311図　54号横穴墓出土遺物実測図(2) ……115
第312図　54号横穴墓出土遺物実測図(3) ……116
第313図　54号横穴墓出土遺物実測図(4) ……117
第314図　54号横穴墓出土遺物実測図(5) ……118
第315図　54号横穴墓出土遺物実測図(6) ……119
第316図　54号横穴墓出土遺物実測図(7) ……120
第317図　54号横穴墓出土土器ヘラ記号(1) ……121
第318図　54号横穴墓出土土器ヘラ記号(2) ……122

第319図　55号横穴墓平・断面図 …… 134
第320図　55号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 136
第321図　55号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 137
第322図　55－A号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 138
第323図　55－A号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 139
第324図　55－A号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 140
第325図　55－A号横穴墓出土遺物実測図(4) …… 141
第326図　55－A号横穴墓出土遺物実測図(5) …… 142
第327図　55－A号横穴墓出土遺物実測図(6) …… 143
第328図　55－B号横穴墓出土遺物実測図 …… 144
第329図　56号横穴墓周辺平面図 …… 154
第330図　56号横穴墓平・断面図 …… 155
第331図　56号横穴墓縦断土層図 …… 156
第332図　同出土土器ヘラ記号 …… 156
第333図　56号横穴墓出土遺物実測図 …… 157
第334図　57号横穴墓平・断面図 …… 160
第335図　57号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 161
第336図　57号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 162
第337図　57号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 163
第338図　57号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 163
第339図　58号横穴墓平・断面図 …… 168
第340図　58号横穴墓出土遺物実測図 …… 169
第341図　59号横穴墓平・断面図 …… 171
第342図　59号横穴墓ポケット状横穴遺物出土状態 …… 172
第343図　59号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 173
第344図　59号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 174
第345図　59号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 175
第346図　59号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 176
第347図　59号横穴墓出土遺物実測図(4) …… 177
第348図　59号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 178
第349図　60号横穴墓周辺平面図 …… 184
第350図　60号横穴墓平・断面図 …… 185
第351図　60号横穴墓縦断土層図 …… 186
第352図　61号横穴墓平・断面図 …… 188
第353図　61号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 189
第354図　61号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 190
第355図　61号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 191
第356図　61号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 192
第357図　61号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 193
第358図　62号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 198
第359図　62号横穴墓平・断面図 …… 199
第360図　62号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 201

第361図　62号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 202
第362図　63号横穴墓平・断面図 …… 209
第363図　63号横穴墓縦断土層図 …… 210
第364図　63号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態 …… 211
第365図　63号横穴墓出土遺物実測図 …… 213
第366図　64号横穴墓テラス平面図 …… 214
第367図　64号横穴墓平・断面図 …… 215
第368図　64号横穴墓縦断土層図 …… 216
第369図　64号横穴墓テラス遺物出土状態 …… 216
第370図　64号横穴墓玄室内人骨及び遺物出土状態 …… 217
第371図　64号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 220
第372図　64号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 221
第373図　65号横穴墓平・断面図 …… 230
第374図　65号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 231
第375図　65号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 232
第376図　65号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 233
第377図　65号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 234
第378図　66号横穴墓縦断土層図 …… 237
第379図　66号横穴墓平・断面図 …… 238
第380図　66号横穴墓出土遺物実測図 …… 239
第381図　67号横穴墓平・断面図 …… 241
第382図　67号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 242
第383図　67号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 243
第384図　67号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 244
第385図　67号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 245
第386図　67号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 246
第387図　67号横穴墓出土遺物実測図(4) …… 247
第388図　68号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 251
第389図　68号横穴墓平・断面図 …… 252
第390図　68号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 254
第391図　68号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 255
第392図　68号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 256
第393図　68号横穴墓出土遺物実測図(4) …… 257
第394図　68号横穴墓出土遺物実測図(5) …… 258
第395図　同出土土器ヘラ記号 …… 258
第396図　69号横穴墓平・断面図 …… 274
第397図　69号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 275
第398図　69号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 276
第399図　69号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 277
第400図　69号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 278
第401図　69号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 279
第402図　70号横穴墓縦断土層図 …… 283

第403図　70号横穴墓平・断面図 …… 284
第404図　70号横穴墓出土遺物実測図 …… 285
第405図　71号横穴墓周辺平面図 …… 287
第406図　71号横穴墓平・断面図 …… 288
第407図　71号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 290
第408図　71号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 291
第409図　71号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 292
第410図　71号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 293
第411図　同出土土器ヘラ記号 …… 293
第412図　72号横穴墓平・断面図 …… 296
第413図　73号横穴墓周辺平面図 …… 297
第414図　73号横穴墓平・断面図 …… 298
第415図　73号横穴墓縦断土層図 …… 299
第416図　73号横穴墓出土遺物実測図 …… 299
第417図　同出土土器ヘラ記号 …… 299
第418図　74号横穴墓縦断土層図 …… 301
第419図　74号横穴墓平・断面図 …… 302
第420図　74号横穴墓出土遺物実測図 …… 303
第421図　75号横穴墓平・断面図及び縦断土層図 …… 305
第422図　76号横穴墓縦断土層図 …… 306
第423図　76号横穴墓平・断面図 …… 307
第424図　76号横穴墓出土遺物実測図 …… 308
第425図　77号横穴墓周辺平面図 …… 309
第426図　77号横穴墓平・断面図及び縦断土層図 …… 310
第427図　78号横穴墓平・断面図 …… 311
第428図　78号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 312
第429図　78号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 313
第430図　79号横穴墓周辺平面図 …… 319
第431図　79号横穴墓平・断面図 …… 320
第432図　80号横穴墓周辺平面図 …… 321
第433図　80号横穴墓平・断面図 …… 322
第434図　80号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 323
第435図　80号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 325
第436図　80号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 326
第437図　80号横穴墓出土遺物実測図(3) …… 327
第438図　80号横穴墓出土遺物実測図(4) …… 328
第439図　80号横穴墓出土遺物実測図(5) …… 329
第440図　80号横穴墓出土遺物実測図(6) …… 330
第441図　80号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 337
第442図　81号横穴墓平・断面図 …… 339
第443図　81号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図 …… 340
第444図　81号横穴墓出土遺物実測図(1) …… 341

第445図　81号横穴墓出土遺物実測図(2) …… 342
第446図　81号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 342
第447図　1号溝出土遺物実測図 …… 345
第448図　24・28・31・33・36・38・40号横穴墓出土遺物実測図 …… 346
第449図　18号横穴墓出土貝製品実測図 …… 347
第450図　36・38号横穴墓出土土器ヘラ記号 …… 348
第451図　中津扇状地の地形 …… 377
第452図　中津平野の微地形 …… 379
第453図　中津平野の地形面分類図 …… 380
第454図　中津平野の沖積面の地形分類図 …… 380
第455図　地質調査所A地点の地質柱状図 …… 383
第456図　中津平野の沖積地の南北地質断面図 …… 384
第457図　上ノ原横穴墓群出土工具実測図 …… 392
第458図　24号横穴墓玄室内工具痕拓影図 …… 393
第459図　24・36号横穴墓玄室内工具痕拓影図 …… 394
第460図　繁根木型貝輪実測図 …… 396
第461図　古墳時代の貝輪分布図 …… 397
第462図　世利門・臼塚古墳出土貝輪実測図 …… 398
第463図　イモガイ横型貝輪着装者の男女比 …… 400
第464図　勾玉材質別構成比 …… 408
第465図　上ノ原横穴墓群出土管玉計測図 …… 408
第466図　丸玉材質別構成比 …… 409
第467図　ガラス小玉色別構成比 …… 409
第468図　塚廻り古墳群出土人物埴輪頸飾り集成図 …… 412
第469図　人物埴輪頸飾り集成図 …… 412
第470図　刀装具鍔の象嵌文様 …… 416
第471図　福岡県柿原D地区8号墳出土遺物 …… 419
第472図　風用金具の変遷 …… 419
第473図　鉄鏃分類要素模式図 …… 421
第474図　上ノ原横穴墓群出土鉄鏃編年表 …… 422
第475図　上ノ原横穴群出土土師器編年表 …… 430
第476図　特殊な土器実測図 …… 432
第477図　ヘラ記号土器の器種別割合 …… 434
第478図　ヘラ記号土器出土横穴墓分布図 …… 435
第479図　山田東窯出土須恵器の Rb–Sr 分布図 …… 445
第480図　伊藤田群と山田東窯の相互識別 …… 445
第481図　宗像群の須恵器の Rb–Sr 分布図 …… 446
第482図　伊藤田群と宗像群の相互識別 …… 446
第483図　大阪陶邑群と宗像群の相互識別 …… 447
第484図　大阪陶邑群産と推定されたものの Rb–Sr 分布図(1) …… 447
第485図　大阪陶邑群産と推定されたものの Rb–Sr 分布図(2) …… 447
第486図　伊藤田群産と推定されたものの Rb–Sr 分布図(1) …… 448

第487図　伊藤田群産と推定されたものの Rb−Sr 分布図(2)…… 448
第488図　宗像群産と推定されたものの Rb−Sr 分布図…… 448
第489図　産地不明となったものの Rb−Sr 分布図…… 448
第490図　土師器のクラスター分析 …… 448
第491図　土師器の Rb−Sr 分布図…… 449
第492図　炭化物表皮電子顕微鏡写真 …… 460
第493図　炭化材顕微鏡写真(1) …… 463
第494図　炭化材顕微鏡写真(2) …… 464
第495図　炭化材顕微鏡写真(3) …… 465
第496図　頭蓋最大長、最大幅 …… 470
第497図　頭蓋最大長と最大幅の比較 …… 470
第498図　上顔高、中顔高 …… 471
第499図　上顔高と中顔高の比較 …… 471
第500図　眼窩幅、眼窩高 …… 471
第501図　眼窩幅と眼窩高の比較 …… 471
第502図　顔面平坦度の比較 …… 473
第503図　西日本における古墳時代抜歯人骨の分布 …… 478
第504図　上ノ原古墳人と各集団とのペンローズ …… 480
第505図　頭蓋計測値 9 項目のペンローズ形態距離に基づくクラスター分析 …… 481
第506図　頭蓋計測値 9 項目のペンローズ平均距離に基づくクラスター分析 …… 481
第507図　上ノ原出土人骨およびその他の古墳時代遺跡出土人骨のδ^{13}C 値の分布 …… 486
第508図　上ノ原横穴墓群とその他の古墳時代男性人骨のδ^{13}C 値の分布 …… 486
第509図　上ノ原横穴墓群出土人骨および近隣遺跡出土人骨のδ^{13}C 値の分布 …… 487
第510図　11号横穴墓被葬者の親族関係モデル …… 493
第511図　21号横穴墓被葬者の親族関係モデル …… 493
第512図　25号横穴墓被葬者の親族関係モデル …… 493
第513図　27号横穴墓被葬者の親族関係モデル …… 494
第514図　63号横穴墓被葬者の親族関係モデル …… 494
第515図　30号横穴墓被葬者の親族関係モデル …… 494
第516図　21号横穴墓被葬者のQ−相関係数に基づくクラスター分析 …… 495
第517図　上ノ原横穴墓群への埋葬の基本モデル …… 497
第518図　63・64・65号横穴墓被葬者の家系的連続 …… 499
第519図　35号横穴墓被葬者の世代構成 …… 502
第520図　上ノ原横穴墓群（20号〜30号）における家系の連続 …… 504
第521図　上ノ原横穴墓群における埋葬システム …… 505
第522図　上ノ原横穴墓群階層変遷図 …… 509
第523図　8 号横穴墓玄室内配列埋置土器出土状態 …… 510
第524図　17号横穴墓玄室内一括埋置土器出土状態 …… 510
第525図　26号横穴墓墓道部破砕散布土器出土状態 …… 511
第526図　5 号横穴墓前庭部配列埋置土器出土状態 …… 512
第527図　20号横穴墓墓道部配列埋置及び破砕散布土器出土状態 …… 513
第528図　18号横穴墓墓道部一括埋置土器出土状態 …… 513

第529図　59号横穴墓ポケット状横穴配列埋置土器出土状態 …… 513
第530図　11号横穴墓テラス状遺構破砕散布甕出土状態 …… 514
第531図　25号横穴墓テラス配列埋置及び破砕散布土器出土状態 …… 514
第532図　上ノ原横穴墓群築造時期一覧表 …… 516
第533図　上ノ原横穴墓群築造時期一覧表 …… 517
第534図　上ノ原横穴墓群周辺墳墓分布図 …… 520
第535図　上ノ原台地周辺の遺跡と地形概念図 …… 524
第536図　上ノ原台地周辺の集落・耕地・墓地の変遷概念図 …… 526

表 目 次

第91表　41号横穴墓出土土器観察表 …… 5
第92表　41号横穴墓出土鉄器観察表 …… 5
第93表　42号横穴墓出土土器観察表 ……14
第94表　42号横穴墓出土鉄器観察表 ……17
第95表　43号横穴墓出土土器観察表 ……27
第96表　43号横穴墓出土鉄器観察表 ……30
第97表　43号横穴墓出土耳環計測表 ……30
第98表　44号横穴墓出土土器観察表 ……35
第99表　44号横穴墓出土鉄器観察表 ……35
第100表　45号横穴墓出土土器観察表 ……42
第101表　45号横穴墓出土鉄器観察表 ……44
第102表　46号横穴墓出土土器観察表 ……48
第103表　46号横穴墓出土鉄器観察表 ……48
第104表　47号横穴墓出土耳環計測表 ……57
第105表　47号横穴墓出土土器観察表 ……58
第106表　47号横穴墓出土鉄器観察表 ……63
第107表　48号横穴墓出土土器観察表 ……68
第108表　48号横穴墓出土鉄器観察表 ……68
第109表　48号横穴墓出土骨角器観察表 ……68
第110表　48号横穴墓出土玉類計測表 ……68
第111表　49号横穴墓出土土器観察表 ……74
第112表　49号横穴墓出土鉄器観察表 ……75
第113表　49号横穴墓出土玉類計測表 ……75
第114表　50号横穴墓出土鉄器観察表 ……78
第115表　51号横穴墓出土土器観察表 ……90
第116表　51号横穴墓出土鉄器観察表 ……94
第117表　51号横穴墓出土玉類計測表 ……95
第118表　53号横穴墓出土鉄器観察表 …… 105
第119表　53号横穴墓出土土器観察表 …… 108
第120表　54号横穴墓出土鉄器観察表 …… 112
第121表　54号横穴墓出土土器観察表 …… 123
第122表　54号横穴墓出土耳環計測表 …… 127
第123表　54号横穴墓出土玉類計測表 …… 128
第124表　55号横穴墓出土土器観察表 …… 144
第125表　55－A号横穴墓出土鉄器観察表 …… 149
第126表　55－A号横穴墓出土耳環計測表 …… 149
第127表　55－A横穴墓出土玉類計測表 …… 150
第128表　56号横穴墓出土土器観察表 …… 158
第129表　56号横穴墓出土鉄器観察表 …… 158
第130表　56号横穴墓出土耳環計測表 …… 158

第131表　56号横穴墓出土玉類計測表 …… 158
第132表　57号横穴墓出土土器観察表 …… 164
第133表　57号横穴墓出土鉄器観察表 …… 164
第134表　57号横穴墓出土耳環計測表 …… 164
第135表　57号横穴墓出土玉類計測表 …… 165
第136表　58号横穴墓出土鉄器観察表 …… 169
第137表　59号横穴墓出土土器観察表 …… 178
第138表　59号横穴墓出土鉄器観察表 …… 181
第139表　59号横穴墓出土耳環計測表 …… 181
第140表　59号横穴墓出土石器観察表 …… 182
第141表　59号横穴墓出土玉類計測表 …… 182
第142表　61号横穴墓出土土器観察表 …… 194
第143表　61号横穴墓出土鉄器観察表 …… 196
第144表　61号横穴墓出土耳環計測表 …… 196
第145表　61号横穴墓出土玉類計測表 …… 196
第146表　62号横穴墓出土土器観察表 …… 200
第147表　62号横穴墓出土鉄器観察表 …… 203
第148表　62号横穴墓出土貝製品計測表 …… 204
第149表　62号横穴墓出土玉類計測表 …… 204
第150表　63号横穴墓出土鉄器観察表 …… 213
第151表　64号横穴墓出土土器観察表 …… 222
第152表　64号横穴墓出土鉄器観察表 …… 223
第153表　64号横穴墓出土玉類計測表 …… 223
第154表　65号横穴墓出土土器観察表 …… 235
第155表　65号横穴墓出土鉄器観察表 …… 236
第156表　65号横穴墓出土耳環計測表 …… 236
第157表　66号横穴墓出土玉類計測表 …… 239
第158表　67号横穴墓出土土器観察表 …… 248
第159表　67号横穴墓出土鉄器観察表 …… 250
第160表　67号横穴墓出土玉類計測表 …… 250
第161表　68号横穴墓出土土器観察表 …… 259
第162表　68号横穴墓出土玉類計測表 …… 260
第163表　69号横穴墓出土土器観察表 …… 280
第164表　69号横穴墓出土鉄器観察表 …… 282
第165表　69号横穴墓出土耳環・貝輪・銅鏡計測表 …… 282
第166表　69号横穴墓出土玉類計測表 …… 282
第167表　70号横穴墓出土鉄器観察表 …… 286
第168表　70号横穴墓出土玉類計測表 …… 286
第169表　71号横穴墓出土土器観察表 …… 293
第170表　71号横穴墓出土鉄器観察表 …… 294
第171表　71号横穴墓出土耳環計測表 …… 294
第172表　71号横穴墓出土玉類計測表 …… 294

第173表　73号横穴墓出土土器観察表 …… 300
第174表　73号横穴墓出土玉類計測表 …… 300
第175表　74号横穴墓出土土器観察表 …… 303
第176表　74号横穴墓出土鉄器観察表 …… 303
第177表　76号横穴墓出土鉄器観察表 …… 308
第178表　78号横穴墓出土玉類計測表 …… 314
第179表　80号横穴墓出土土器観察表 …… 331
第180表　80号横穴墓出土鉄器観察表 …… 334
第181表　80号横穴墓出土耳環計測表 …… 334
第182表　80号横穴墓出土銅鈴計測表 …… 334
第183表　80号横穴墓出土玉類計測表 …… 335
第184表　81号横穴墓出土土器観察表 …… 343
第185表　81号横穴墓出土鉄器観察表 …… 344
第186表　81号横穴墓出土耳環計測表 …… 344
第187表　上ノ原横穴墓群一覧表 …… 349
第188表　1～40号横穴墓遺物出土地点一覧表（上ノ原横穴墓群Ⅰ） …… 357
第189表　上ノ原横穴墓群出土人骨一覧表 …… 365
第190表　上ノ原横穴墓群形態分類表 …… 386
第191表　上ノ原横穴墓群形態一覧表 …… 386
第192表　上ノ原横穴墓群築造時期表 …… 387
第193表　古墳時代の九州出土貝輪地名表 …… 402
第194表　銅鈴出土地名表 …… 406
第195表　碧玉製切子玉出土地名表 …… 410
第196表　各横穴墓の出土玉類構成パターン …… 411
第197表　上ノ原横穴墓群出土玉類一覧表 …… 414
第198表　鉄鏃出土横穴対称表 …… 423
第199表　形式別に見た鉄鏃出土数 …… 425
第200表　上ノ原横穴墓群出土土器編年対称表 …… 431
第201表　ヘラ記号土器出土横穴墓一覧 …… 440
第202表　器種別にみた各ヘラ記号の数 …… 442
第203表　横穴墓におけるヘラ記号土器出土数 …… 443
第204表　土器の分析値 …… 451
第205表　須恵器の産地推定 …… 455
第206表　産地推定された須恵器の器形による分類 …… 459
第207表　産地推定された須恵器の横穴墓ごとの分類 …… 459
第208表　上ノ原横穴墓群出土人骨一覧 …… 467
第209表　出土人骨の性・年齢構成 …… 468
第210表　上ノ原頭蓋計測値、示数 …… 469
第211表　頭蓋主要計測値の比較 …… 470
第212表　上ノ原顔面平坦度 …… 472
第213表　顔面平坦度の比較（男性） …… 473
第214表　頭蓋非計測的形質の出現頻度 …… 474

第215表　非計測的形質の共有関係 …… 474
第216表　上ノ原上腕骨計測値、示数 …… 475
第217表　上腕骨計測値の比較 …… 475
第218表　上ノ原大腿骨計測値、示数 …… 475
第219表　大腿骨計測値の比較 …… 476
第220表　上ノ原脛骨計測値、示数 …… 477
第221表　脛骨計測値の比較 …… 477
第222表　上ノ原腓骨計測値、示数 …… 478
第223表　上ノ原古墳人推定身長 …… 478
第224表　推定身長の比較 …… 478
第225表　上ノ原および他の古墳人にみられた抜歯型式 …… 479
第226表　頭蓋計測値９項目に基づくペンロースの距離 …… 480
第227表　上ノ原横穴墓群およびその他の古墳時代遺跡出土人骨のコラーゲン収量とδ^{13}C値 … 485
第228表　21号横穴墓被葬者のＱ－相関係数 …… 495
第229表　25号横穴墓被葬者のＱ－相関係数 …… 496
第230表　27号横穴墓被葬者のＱ－相関係数 …… 496
第231表　30号横穴墓被葬者のＱ－相関係数 …… 496
第232表　63号横穴墓被葬者のＱ－相関係数 …… 496
第233表　64－３号人骨と63号横穴墓被葬者のＱ－相関係数 …… 500
第234表　27号横穴墓被葬者と30号横穴墓被葬者間のＱ－相関係数 …… 503
第235表　上ノ原横穴墓群土器接合表 …… 512
第236表　元和８年の人畜御改帳 …… 515

41号横穴墓

1．立地、調査前の状況

41号横穴墓は、北支群の東側に位置する斜面下位にあり、南西方向に開口する。開口部の標高は、約31mである。全長は、約4.35mを測り、主軸はN－56.5°－Eにとる。調査前の状況は、近年の造成によって天井部が、一部陥没していたが、横穴墓の存在を示す落ち込みなどは認められなかった。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、上部のテラス状遺構の検出を行った。テラス状遺構は、民家の建設によって攪乱されており、確認できなかった。

2．規模、構造

1）前庭部、羨門部

a）規模、構造　前庭部は長さ1.3m、幅は入口付近で0.25m、羨門付近で1.5mを測る。前庭部床面はゆるい凹凸があり、羨門に向って約7～8°の傾斜で下降する。特に羨門部前面の1.9m付近で15cm程、0.5m付近で20cm程それぞれ段落ちし羨道部に達する。側壁の傾斜は、両壁とも約72°を測る。また羨門部壁の傾斜は約85°を測る。

羨門部は完全に残存しており、高さ0.65m・幅0.52mを測り、正面形態は隅丸方形を呈する。

閉塞施設は、最終埋葬時の様相で、板石と河原円礫を用い入念に構築されている。まず羨門の下部に初葬時の閉塞石6枚を置き、閉塞の基底部を整える。閉塞の配石は次の2工程に分けられる。第1工程は、大形の安山岩製板石1枚と中形の安山岩製板石6枚を使用し羨門を覆う。第2工程は、人頭大の河原石および地山円礫20個前後で、1群を支え隙間を覆う。以上の配石によって面積・体積ともにおおよそ前庭部の3分の1程度が埋る。この配石後に前庭部全体を覆うように埋土がなされる。

b）前庭部内埋土　前庭部内の堆積土壌はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり、全体で4層群9層に分層できた。以下堆積順に説明する。

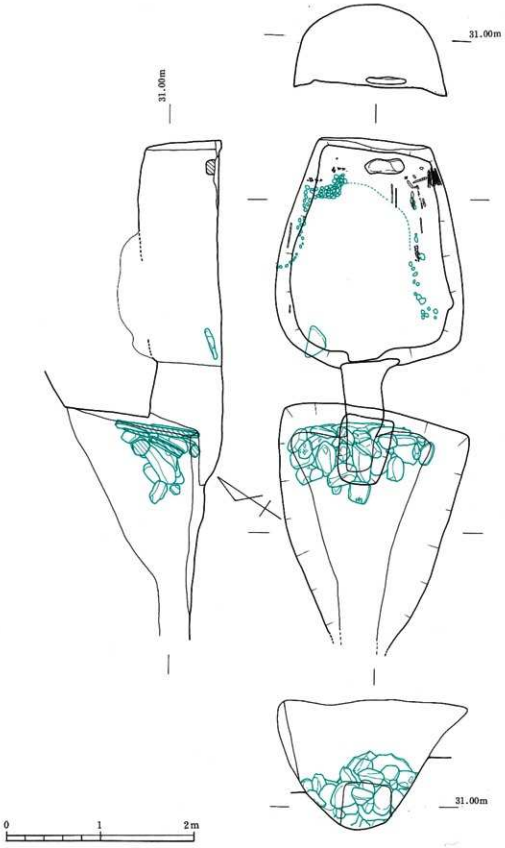
第1層群（Ⅶ層）は前庭部中央約1mの範囲に、厚い所でほぼ10cm程レンズ状に堆積した基盤層の2次堆積土である。本層群は、初葬時の埋土と考えられるが、遺物を少量含む。第2層群によって殆どがカットされている。

第2層群（Ⅵ層）は羨門下面より前庭部全体に厚い所で40cm程レンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積である。墓道先端で旧表土をカットし、上面は第4層群によって削平されている。遺物を包含している。本層群は第1次追葬時の埋土と考えられる。

第3層群（Ⅴ層）は羨門下面より50cm程の範囲に厚い所で20cmレンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積であるが若干風化が進んでいる。本層群は第2次追葬時の埋土と考えられる。

第4層群（Ⅰ～Ⅳ層）は羨門中程より2mの範囲に厚い所で80cm程度堆積している。本層群はさらに4層に細分できる。上層より(1)クロボク質の風化土層であり本横穴墓使用後の旧表土と考えられる（Ⅰ層）。下層とは漸移的に変化する。(2)基盤層の2次堆積で風化が進んでいる（Ⅱ層）。(3)は(2)とほぼ同じであるが風

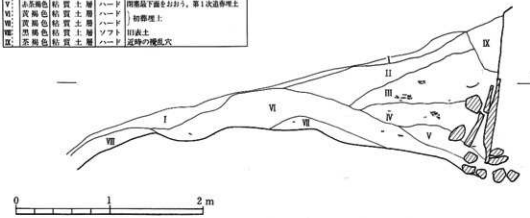
第237図　41号横穴墓周辺平面図



第238図　41号横穴墓平・断面図

41号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
Ⅰ:	黒褐色	粘質土層	ソフト	風化が進んでいる
Ⅱ:	暗茶褐色	粘質土層	ハード	
Ⅲ:	暗茶褐色	粘質土層	ハード	閉塞石の上面をおおう最終埋葬埋土
Ⅳ:	茶褐色	粘質土層	ハード	閉塞石の下面をおおう第2次追葬埋土
Ⅴ:	赤茶褐色	粘質土層	ハード	閉塞石下面をおおう、第1次追葬埋土
Ⅵ:	黄褐色	粘質土層	ハード	初葬埋土
Ⅶ:	黄褐色	粘質土層	ハード	
Ⅷ:	黒褐色	粘質土層	ソフト	旧表土
Ⅸ:	茶褐色	粘質土層	ハード	近時の攪乱穴



第239図　41号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

化が著しい。下層とは漸移的に変化する（Ⅲ層）。土師器・須恵器片を多量に含む。(4)は基盤層の２次堆積で風化は認められない（Ⅳ層）。土師器、須恵器片を含む。(3)・(4)層に遺物を包含している。本層群は第３次追葬時の埋土と考えられる。

以上の土層観察結果から本横穴墓では少なくとも４度の埋葬が行われたと推定される。

２）羨道、玄室

羨道部は床面で、長さ0.75ｍ、玄門幅0.4ｍを測る。床面はほぼ水平で玄室に向う。天井は床面にほぼ平行である。玄室は、長さ2.35ｍ、裾部幅1.85ｍ、奥壁幅1.22ｍで平入り隅丸台形を呈し床面には幅20cm、深さ10cmの排水溝が設けられている。天井は中央より玄門側は崩落しているが、アーチ状をなす。高さは中央付近で0.85ｍを測り、玄室と羨道との境は段を設けている。床面には５cm前後の埋土を全面に行い、その後、両側壁に接して礫床を設けている。左右の礫床ともに直径５cm以下の小円礫を主体に敷きつめている。右側礫床は長さ約1.6ｍ、幅0.4～0.6ｍを測り、左側の礫床は長さ約1.0ｍ、幅約0.3ｍを測る。右側礫床奥壁よりと左側礫床裾壁よりに長さ40cm、幅30cmの河原円礫を利用した石枕を設けている。床面は標高30.5ｍである。

３．遺物の出土状態

１）玄室内

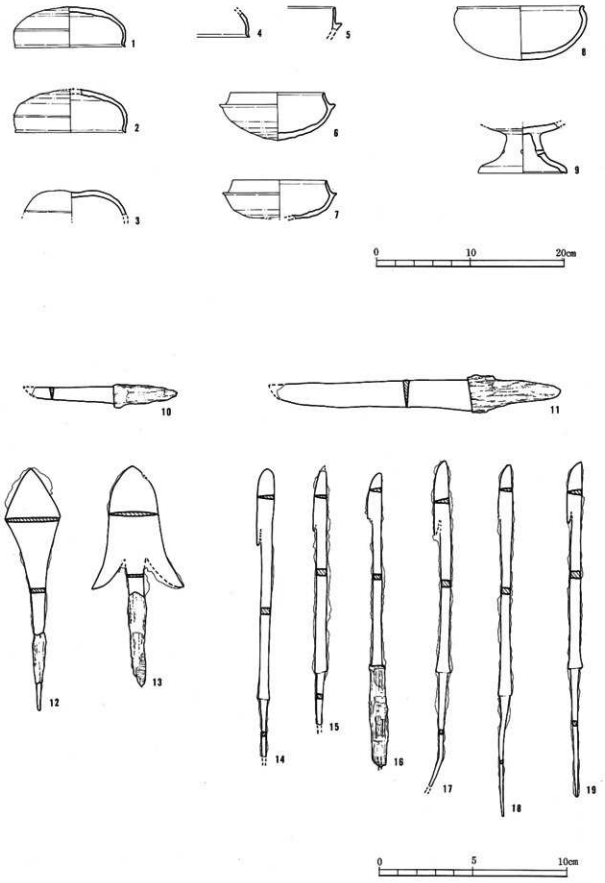
ａ）埋葬人骨　少なくとも４体の人骨片が確認された。まず奥壁右コーナー付近において頭骸骨片および歯が検出された。また奥壁中央石枕下方において歯が散乱し、同左コーナー付近において上顎骨および歯と中央左側壁ぎわで下肢骨片がそれぞれ検出されたが、保存状態は悪く取り上げ不能であった。

ｂ）副葬品　玄室内には天井の若干の落盤土のほかは土砂はほとんどなく遺物も原位置をとどめていた。まず奥壁右コーナーの溝内に鉄鏃群（第240図17～19）が刃先を奥壁に向け出土し、その左横に刀子が１本（第240図11）刃先を中央に向け出土した。さらに中央よりに鉄鏃５本（第240図12～16）が刃先を奥壁に向けた状態でそれぞれ出土した。また左側壁の裾壁よりの溝内に刀子１本（第240図10）が刃先を奥壁に向けて出土した。なお左裾部の石枕上方で赤色顔料が10cmの範囲に認められた。

２）前庭部内

前庭部の遺物の出土層位については埋土の項で示した。ここでは遺物の出土状況について述べる。

前庭部閉塞石付近において須恵器坏蓋、坏身、高坏、土師器埴（第240図１～９）が破片の状態で出土した。これは追葬時の攪乱によるものと考えられる。（村上久和）



第240図　41号横穴墓出土遺物実測図

第91表　41号横穴墓出土土器観察表

（単位：cm）

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
1	坏蓋	・11.8 ・4.3	口縁部は内湾しながらのび、端部はわずかに外反し内傾する面をなす。外面には沈線がみとめられる。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	2～3㎜の石英、長石粒を含む	良好		
2	坏蓋	・11.9 ・4.5	口縁部は内湾しながらのび、端部はわずかに外反し内傾する面をなす。外面には沈線がみとめられる。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒を多量に含む	良好		
3	坏蓋	・－ ・2.5＋α	外面にはうすい稜がみられる。天井部は平らである。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	精緻	良好 堅緻		
4	坏蓋	・6.5 ・2.5＋α	口縁部は内湾しながらのび、端部はわずかに外反し、内傾する面をなす。外面にうすい稜がみとめられる。	回転ナデ	回転ナデ	灰黒色	精緻	良好 堅緻		
5	坏身	・－ ・－ ・－	たちあがりはほぼ直立してのび端部は内傾するうすい段をなす。受部は水平で丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	石英、黒色砂粒を含む	良好 堅緻		
6	坏身	・10 ・5 ・12.4	たちあがりは内傾してのび、端部は内傾するうすい面をなす。受部は上外方にのび丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	明青灰色	1～2㎜の石英粒を少量含む	良好 堅緻		
7	坏身	・10 ・4 ・12.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸く内面にうすい沈線がある。受部は細く水平にのび、端部はとがる。底部はやや深く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒をやや多量に含む	良好 堅緻		
8	椀	・13.7 ・5.7 ・14.3	口縁部は内湾しながらのび、端部は細く外反し丸い。底部は深く丸みをおびる。	ナデ？	ヨコナデ？	淡橙色	石英粒をやや多量に含む	良好	土師器	
9	高坏	・9.51 ・5.2＋α	脚部は下外方にのび、下に行くにつれてやや内湾する。端部はほぼ水平に近く内傾し凹面をなす。4方スカシ孔がある。	回転ナデ 調整ナデ	回転ヘラケズリ 回転ナデ	青灰色	石英、長石粒を含む	良好		

第92表　41号横穴墓出土鉄器観察表

（単位：cm）

番号	器種	全長	頭部長（刀部）	刃幅	頭幅	刃部厚	頭厚	備考
10	刀子	8.2以上	4.7	0.7	不明	0.2	不明	鹿角製柄残存
11	同上	15.4以上	10.5	1.6	不明	0.3	不明	木質残存
12	鉄鏃	12.7	6.3	2.8	0.9	0.25	0.3	
13	同上	11.6	6.4	3.5	0.9	1.3	0.15	桜樹皮巻残存
14	同上	15.8以上	4.0	0.8	0.5	0.3	0.4	
15	同上	15.2以上	4.0	0.8	0.5	0.2	0.35	
16	同上	15.8以上	2.8	0.8	0.5	0.2	0.3	桜樹皮巻残存
17	同上	17.2以上	3.5	0.8	0.5	0.3	0.4	
18	同上	18.6	2.7	0.75	0.45	0.2	0.3	
19	同上	17.8	3.3	0.75	0.5	0.25	0.45	

42号横穴墓

1．立地、調査前の状況

42号横穴墓は北支群南よりの斜面下位に立地し、南西方向に開口する。全長は11.4mで、標高は墓道部の先端で32mを測る。玄室主軸方向は、N－43°－Eを測り、墓道主軸は西に曲っている。保存状態は、墓道上部の削平および中世の溝の横断はあるものの、おおむね良好であった。本横穴墓は斜面の遺構検出中に供献土器群が検出され発見の契機となった。調査以前には横穴墓の存在を示すような落ち込み等は認められなかった。調査は供献土器群の検出を進めつつ、墓道プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査を行った。閉塞施設の除去後、玄室内の崩落土等の除去作業を行い、遺物・礫床等の検出を実施した。

2．規模、構造

1）墓道、羨門部

a）規模、構造　墓道は長さ8.6m、幅は墓道入口で1.15m、羨門付近で上部幅2.22m、底面幅1.75mを測る。墓道床面は凹凸を持ちながらも、約10°の緩やかな傾斜で羨門に向って上がる。なお、墓道入口から約6m羨門方向へ寄った位置までは幅が狭く、その後羨門まで広がる逆台形状を呈すいわゆる前庭部を作る。この部分の両端には長さ0.9～1.2m、幅0.6～0.7m、高さ10cmの基壇を造り出し、中央には玄室からの排水溝が約1.2m程掘られている。排水溝には安山岩製板石を四個蓋石として使用している。側壁は羨門部の高さ2.1mで、70°前後の傾斜で立ち上がる。羨門壁は70°前後の傾斜を持ち、側壁とほぼ直角に接している。

羨門は天井が若干崩れているが、推定の羨門高は0.9m、幅は0.72mを測る。閉塞施設は最終埋葬時の状況であり、羨門全体を覆っていない。閉塞施設の構築方法は溝の蓋石を根石とし、上面に安山岩板石を3枚立てて羨門を覆っていたと考えられるが、追葬時に2枚の石を羨道方向に倒して使用した状況がうかがわれる。またこの板石の根石として9個の河原円礫が板石の下面に認められた。

b）墓道内埋土　墓道内の堆積土壌はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり全体で4層群22層に区分できた。以下堆積順に説明する。

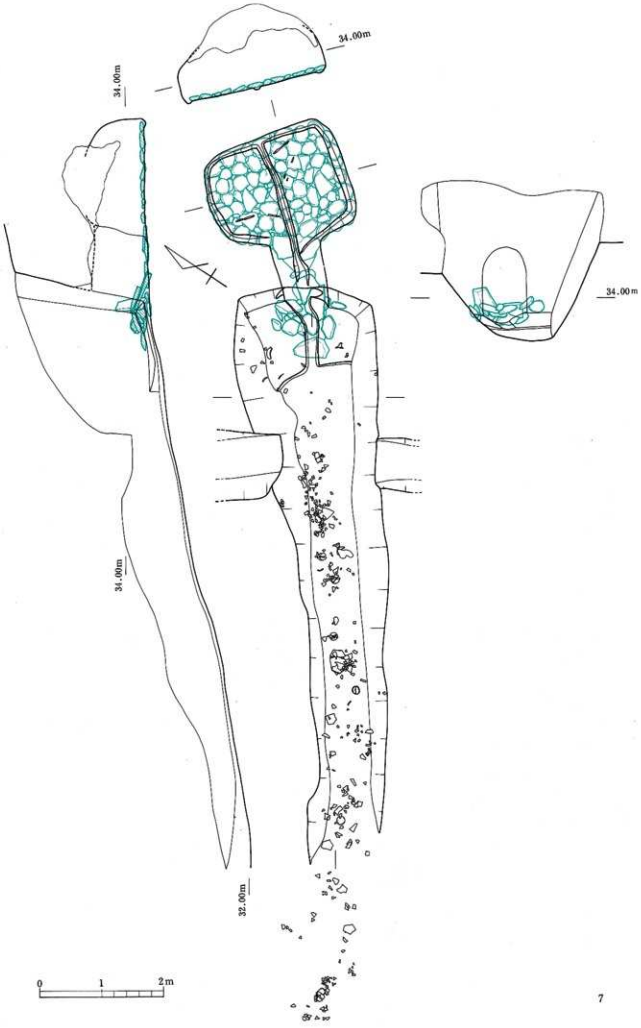
第1層群（XⅧ・XXⅠ・XXⅡ層）は羨門下面より墓道入口付近までもっとも厚い所で25cm前後水平に堆積し、上面を第2層群及び3層群によってカットされている。本層はさらに2層に区分される。(1)下層（XXⅠ・XXⅡ層）は基盤層の2次堆積土である。(2)上層（XⅧ層）は風化の進んだ基盤層の2次堆積土であり破砕散布状態の遺物を多く包含する。本層群は初葬時の埋土と考えられる。

第2層群（XⅢ・XⅤ・XⅥ・XⅦ層）は羨門から2m付近より墓道入口付近まで最も厚い所で30cm前後水平に堆積し、上面を3層群によってカットされている。本層はさらに2層に区分される。(1)下層（XⅤ・XⅥ・XⅦ層）は基盤層の二次堆積土で固く締まっている。上層とは漸移的変化をする。(2)下層（XⅢ層）は風化の進んだ層である。本層群は第1次追葬時の埋土と考えられる。

第3層群（Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・XⅠ・XⅣ層）は羨門から墓道入口付近まで最も厚い所で1.5m、最も薄い所で40cmと斜めに堆積している。本層はさらに3層に区分される。(1)下層（XⅣ層）は羨門から2mほど斜めに堆積した風化の著しい堆積土壌で羨門の閉塞土である。(2)中層（Ⅸ・Ⅹ・XⅠ層）は羨門壁上部から墓道入口付近まで堆積した基盤層の2次堆積土であり、羨門に近いほど風化が進んでいる。本層上面で遺物の破砕散布が多く認められた。(3)上層（Ⅷ層）は(2)層の風化土層であり本層下面に遺物の破砕散布が多く認められた。本層群は最終埋葬時の埋土及びその風化土と考えられる。

第4層群（Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ層）は羨門から2mほどの所に50cm堆積した層で、中世の溝の埋土である。Ⅵ層は泥土であることから溝には水が溜まっていたと考えられる。

第5層群（Ⅰ・Ⅱ・Ⅶ層）は近年の造成埋土である。



7

第241図　42号横穴墓平・断面図

以上の土層観察結果から本横穴墓では少なくとも３回の埋葬が行われたと考えられる。

２）羨道、玄室

羨道は長さ1.0ｍ、玄門幅0.8ｍを測る。天井は中央部分が崩落しているが床面からの推定高は0.9ｍ前後である。玄室は長さ1.77ｍ、裾部幅2.0ｍ、奥壁幅2.0ｍの平入り長方形を呈し、床面には幅10～15cm前後の排水溝が周壁および中央に設けられている。中央の溝は羨道まで延びている。床面はほぼ平坦であり、玄室には人頭大の川原石を、羨道には50cm大の板石をそれぞれ全面に敷き詰めている。玄室内の敷石の構築は中央の排水溝の上から左右に広げるように行い最後に５～10cmの小礫を円礫の隙間に補塡している。なお、左側壁の奥壁よりに川原石を１個積み重ねて石枕としている。

天井は崩落が激しいがドーム形を呈すと推定され、床面からの高さは中央付近で１ｍ前後と推定される。羨道とは段で境界を設けている。また、壁面には構築時の工具痕が明瞭に残っている。

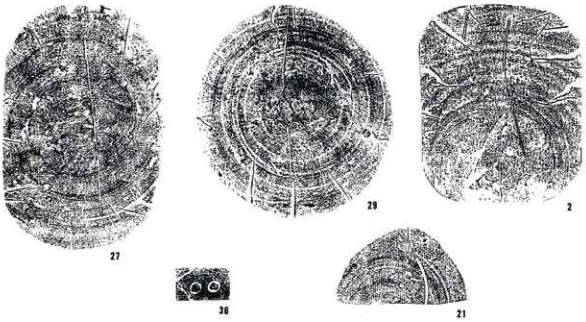
３．遺物の出土状態

１）玄室内

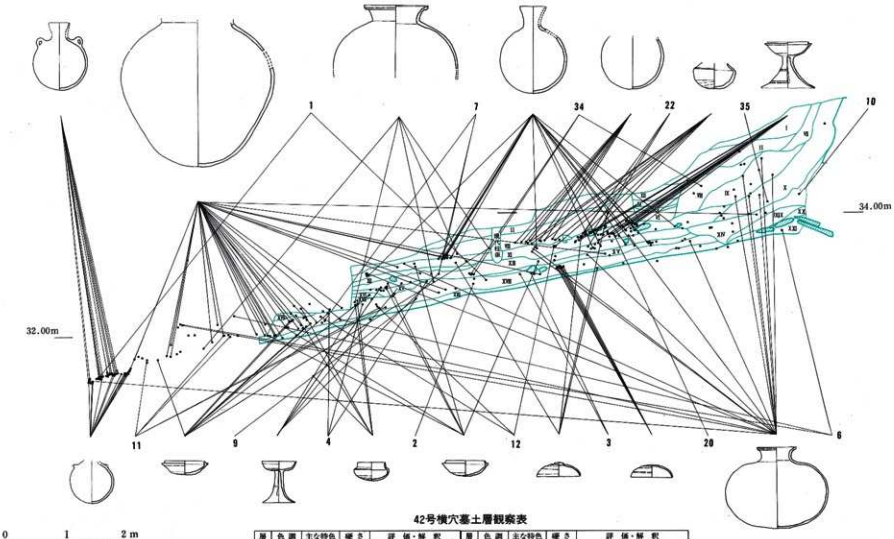
玄室内には天井部の崩落土がかなり認められたが、清掃後に人骨片、鉄器類が検出された。人骨は中央奥壁ぎわに大腿骨片が、左側壁の裾壁ぎわに大腿骨片および頭骨片が検出されたがいずれも腐植が激しく取り上げ不能であった。鉄器は左裾壁と側壁のコーナーで鉄鏃が、中央の奥壁よりで刀子、馬具、毛抜き形鉄器が、中央右側壁ぎわで鍔がそれぞれ検出された。

２）墓道内

墓道内の遺物の出土層位については、墓道内埋土の項で示した。ここでは遺物の出土状況について述べる。本墓道より多量の土器が検出されたが、須恵器坏１点を除きすべて破片で検出された。分布範囲は羨門付近から墓道入口より２ｍほど離れた所まであるが、中央から入口付近に最も集中している。これらの破片は墓道全体で接合し、出土層位もⅧ～ⅩⅢ層の間で接合するところから、追葬時の墓道埋土の再利用によって遺物が破砕された状況を示していると考えられる。なお、墓道中央付近で轡等の馬具が一括出土した。(友岡信彦)



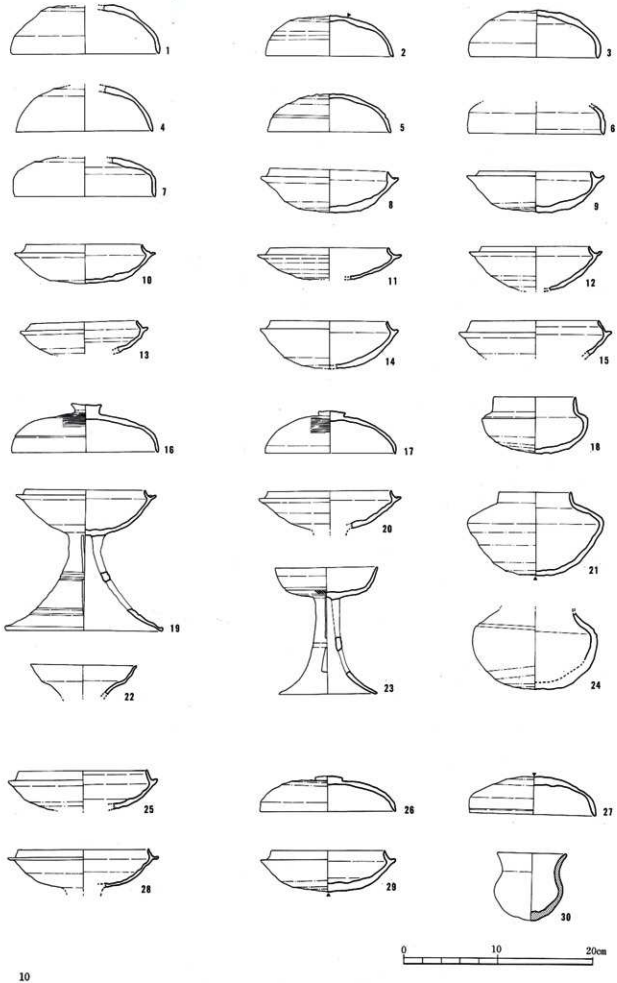
第242図　42号横穴墓出土土器ヘラ記号



42号横穴墓土層観察表

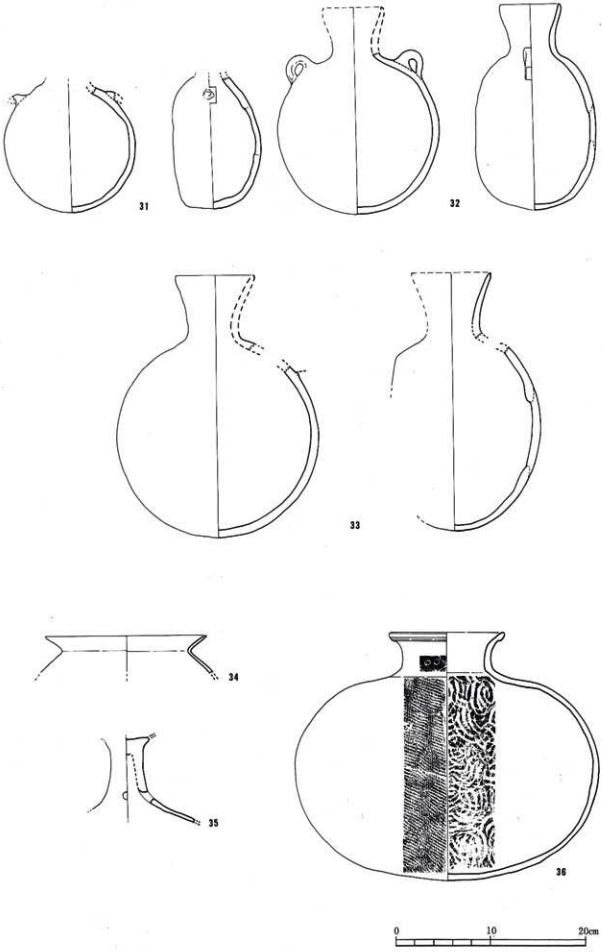
層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈	層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I	黄褐色		やや ハード	2次堆積土	IIC	黄褐色	粘質土	ハード	第1次造墓埋土
II	赤褐色		ハード		IIE	黄褐色	〃	やや ソフト	
III	黄褐色	粘質土層	ハード	1号溝堆積土	IIF	黄褐色	クロボク質土	ソフト	最終埋葬埋土
IV	黄灰色	粘質土層	ソフト		IIG	黄褐色	粘質土層	ハード	
V	灰褐色	粘質土層	ハード		IIH	黄褐色	〃	ハード	
VI	黄灰色	粘質土層	ハード		IIJ	黄褐色	〃	ハード	
VII	明赤褐色	粘質土層	やや ハード	2次堆積土	IIK	黄灰色	粘質土層	ハード	
VIII	暗黒褐色	クロボク質土	ソフト	風化が著しい。旧表土	IIL	黄灰色	クロボク質土	ソフト	初葬埋土
IX	赤褐色	粘質土層	やや ハード	最終埋葬埋土	IIM	灰褐色	粘質土層	ハード	
X	淡黒褐色	クロボク質土	ハード		IIN	黄灰色	〃	ハード	
XI	黄褐色	粘質土層	ハード		IIP	明黄褐色	〃	ごく やや ハード	

第243図　42号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図



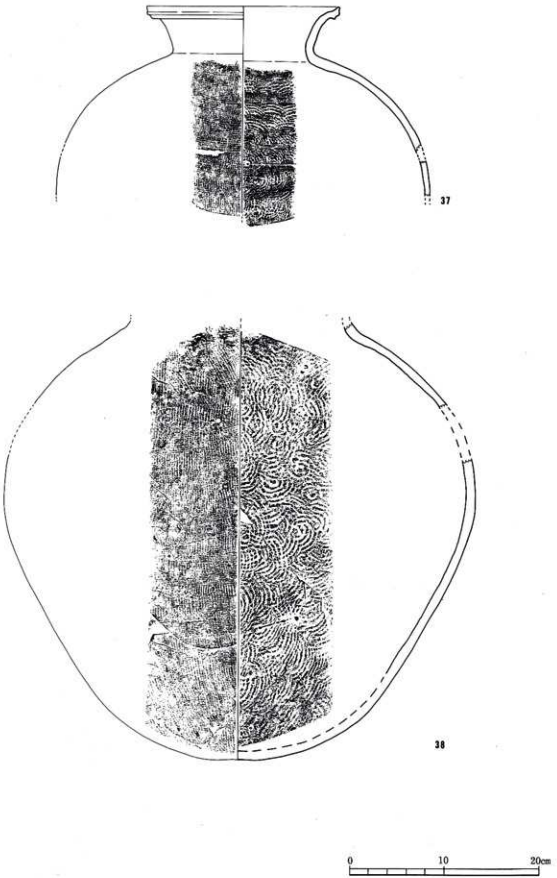
10

第244図　42号横穴墓出土遺物実測図(1)

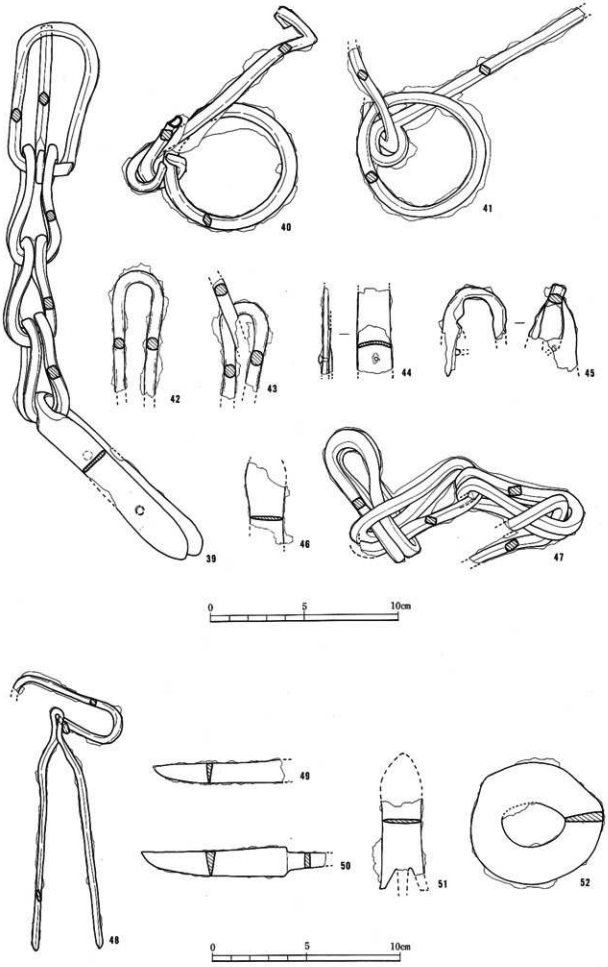


11

第245図　42号横穴墓出土遺物実測図(2)



第246図　42号横穴墓出土遺物実測図(3)



第247図　42号横穴墓出土遺物実測図(4)

第93表　42号横穴墓出土土器観察表

（単位：cm）

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
1	坏蓋	・15.4 ・5.2＋α	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡青灰色	細砂粒を多量に含む	良好		
2	坏蓋	・13.5 ・4.3	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡灰色	角閃石その他の砂粒を少量含む	不良		外面天井部「Ⅱ」
3	坏蓋	・13.6 ・5	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色	精緻	やや不良		
4	坏蓋	・14.5 ・4.5	口縁部は、外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5mm～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
5	坏蓋	・13 ・4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面は稜がみられる。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5mm前後の砂粒を少量含む	良好		
6	坏蓋	・14.2 ・3.1＋α	口縁部はほぼ直下にのび、端部は丸く内側にやや肥厚する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	細白色砂粒を多量に含む	良好		
7	坏蓋	・14.8 ・4＋α	口縁部はほぼ直下にのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色	精緻	良好		
8	坏身	・12.4 ・－ ・14.7	たちあがりはやや短く内傾してのび、端部は丸い。受部は外上方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	赤灰褐色 青灰色	0.5～1mmの白色砂粒を少量含む	良好		
9	坏身	・12.2 ・4.2 ・15	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡褐色 淡青灰色	0.5～1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
10	坏身	・12.2 ・4.2 ・15	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は肥厚しながら水平にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡黄白色	細砂粒を含む	不良		
11	坏身	・12.4 ・3.5＋α ・15.1	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	細砂粒を多量に含む	良好		
12	坏身	・11.4 ・4.8＋α ・14	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 淡灰紫色	細砂粒を含む	良好		
13	坏身	・11.3 ・3.3 ・13.7	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	暗青灰色	石英粒を含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
14	坏身	・12.3 ・5 ・14.6	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡赤褐色 青灰色	0.5mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		
15	坏身	・13.4 ・3.7＋α ・16.2	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色	黒色細砂粒を含む	良好		
16	坏蓋	・15.6 ・5	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ 後カキ目	青灰色	0.5～4mmの白色砂粒をやや多量に含む	良好		
17	坏蓋	・13.9 ・4.5	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ 後カキ目	淡灰色	0.5～1.5mmの石英、角閃石粒を少量含む	良好		
18	壺	・8.6 ・6 ・11.3	口頸部はやや長く直立してのび、端部は丸い。底部はやや浅く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色 褐色	1～4mmの白色砂粒を含む	良好		
19	高坏	・12.8 ・14.8 ・14.9	坏部のたちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。脚部は下外方にのび、端部はわずかに外反し面をなす。外面2ヶ所に2本のうすい沈線をなす部分がある。長方形2段スカシがある。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	細砂粒を含む	不良		
20	高坏	・13.1 ・4＋α ・15.1	たちあがりは内傾してのび、端部は鋭い。受部は細く上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	白色砂粒を多量に含む	良好		
21	短頸壺	・7.6 ・8.8 ・14.5	口頸部は短く直立ぎみにのび、端部は丸い。胴部の最大径は上方にある。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡青灰色	石英粒を含む	良好		外面底部「I」
22	壺	・11.3 ・3＋α	口縁部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反し、端部は丸い。	回転ナデ 波状文	回転ナデ	灰白色	白色砂粒を含む	良好		
23	高坏	・10.8 ・13.3	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面は稜がうすくみられる。坏部は浅い。脚部は下外方にのび、端部は丸い。長方形2段スカシがある。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ	青灰色	精緻	良好		
24	短頸壺	・－ ・8.1 13.2	胴部は楕円形を呈し、最大径は中心部にある。底部はやや平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5mm前後の白色砂粒を含む	良好		
25	坏身	・13.6 ・4.1＋α ・15.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	石英粒を含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
26	坏蓋	・14.4 ・3.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。外面頂部にツマミがつく。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5～1㎜の白色砂粒を少量含む	良好		
27	坏蓋	・13.4 ・4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸く外面に1本の沈線がある。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色 灰色	石英粒を多量に含む	良好		外面天井部「丨」
28	高坏	・13.9 ・4＋α ・15.9	たちあがりは内傾してのび、端部は細く丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ カキ目	青灰色	細砂粒を含む	良好		
29	坏身	・12 ・4.3 ・14	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色	石英粒を多量に含む	良好		外面底部「丨」
30	坩	・7.5 ・7.1 ・7.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ ヘラ切り	灰黒色 灰色 青紫色	石英、角閃石粒を含む	良好		
31	提瓶	・13.8 ・14＋α	胴部は楕円形を呈し、両肩に把手がついているが、欠損している。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	白色砂粒を含む	良好		
32	提瓶	・6.2 ・21.6 ・17.1	口頸部は外反しながらのび、端部はとがりぎみで丸い。胴部は円形を呈し、両肩に環状把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1㎜前後の白色粒を少量含む	良好		
33	提瓶	・8.4 ・13.9	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し外面両肩に環状把手がついた痕跡がみとめられる。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色 灰色	1～3㎜の砂粒を少量含む	良好		
34	壺	・17.1 ・3.6＋α	口頸部は「く」の字状に外反し、端部は丸い。	調整不明	調整不明	淡黄褐色	石英粒を多量に含む	不良		
35	高坏	・— ・9.2＋α ・—	脚部は下外方にのび、下方に穿孔がある。	調整不明	調整不明	淡赤褐色	石英・角閃石その他の砂粒をやや多量に含む	良好	土師器	
36	横瓶	・12.2 ・26.4 ・33.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸く肥厚し、外面に沈線と段をなす。胴部は楕円形を呈す。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ 平行タタキ 回転カキ目	青灰色	精緻	良好		
37	甕	・24 ・20.2＋α ・20	口頸部は外反しながらのび、端部は段をなし丸く、外面に1本の突帯がつく。	回転ナデ 同心円タタキ後横方向に帯状にナデ消し	回転ナデ	青灰色 灰色	1～1.5㎜の白色砂粒を少量含む	やや良好		
38	甕	・— ・46.6 ・25	胴部の最大径は上方にあり、底部はとがりぎみである。	同心円タタキ後ナデ消し	タタキ後 回転カキ目	青灰色 灰色	精緻	良好		

第94表　42号横穴墓出土鉄器観察表

（単位：cm）

番号	器種	全長	頭部長（刀部）	刃幅	頭幅	刃部厚	頭厚	備考
39	馬具							鐙組
40	同上							鐙板と引き手
41	同上							同上
42	同上							兵庫鎖
43	同上							同上
44	同上							U字形金具
45	同上							同上
46	同上							同上
47	同上							兵庫鎖
48	不明鉄器							鉗子
49	刀子	6.8以上	6.8以上	10.5	不明	0.2	不明	
50	同上	9.8以上	7.8	1.3	0.8	0.5	0.3	
51	鉄鏃	4.7以上	4.7以上	2.1	不明	0.2	不明	
52	鋲							

43号横穴墓

1．立地、調査前の状況

43号横穴墓は、北支群南寄りの斜面に立地し、西方向に開口する。全長は約13.26m、標高は前庭部前面の上場で36.4m前後を測る。玄室主軸方向はN－56.5°－Eを測る。保存状態は必ずしも良好とは言い難い。本横穴墓は斜面の遺構検出作業中に前庭部埋土の最上層風化土層が検出され、発見の契機となった。さらに前庭部中央を南北に県道が走り、県道東側側溝部分で玄室天井部が崩落した状態で確認された。昭和58年度は玄室部分と前庭部裾部分の調査を行い、改めて昭和60年度に県道迂回路を設け、旧県道下の前庭部及び閉塞施設の調査を行った。

2．規模、構造

1）墓道、羨門部

a）規模、構造　墓道は長さ約10.3m、残存幅は墓道入口で約1.6mを測り、羨門部に向って拡がる平面形を呈している。しかし県道建設時に墓道上面はかなりの削平をうけている。羨門部と墓道の境から約1.2mまで左右に階段状の墓壇を2段持つ。左右の墓壇はそれぞれ中央部分に向って約9°の傾斜で下降している。1段目の墓壇は左右ともほぼ0.6×0.5mの長方形を呈していて高さは0.3mを測る。2段目の墓壇は左が0.5×0.4m、右は0.3×0.4mで、高さは約0.2mを測る。左右の墓壇間は幅約0.4mで15～20°の傾斜で下降している。その中央には幅0.2mの排水溝が敷設されている。この排水溝は玄室から羨道部へと続き、さらに墓道へと延びている。墓壇から墓道入口にかけての床面は、3～10°の傾斜で下降している。側壁の傾斜は両者ともほぼ同様であり75°を測る。羨門部分は天井部分及び側壁部の削平のために旧状を大きく損なっている。このため高さは推定不能であるが、幅は0.56mを測る。

閉塞施設は削平及び側溝構築のため旧状を大きく損なっている。現状でみる限りは板石、河原円礫を使用している。板石は安山岩で偏平板石を使用している。板石は墓道から順に羨道部奥まで合計6枚敷かれている。これらは一連の行為であり、閉塞施設とは言い難い部分もある。次に羨門部を覆う閉塞施設であるが、安山岩板石が1枚残存している。実際は数枚の板石があったと思われるが、側溝構築の際抜き取られたと推定している。河原円礫は羨門部を覆う安山岩板石の支えと隙間の補填のために使用したと考えられる状況で検出された。

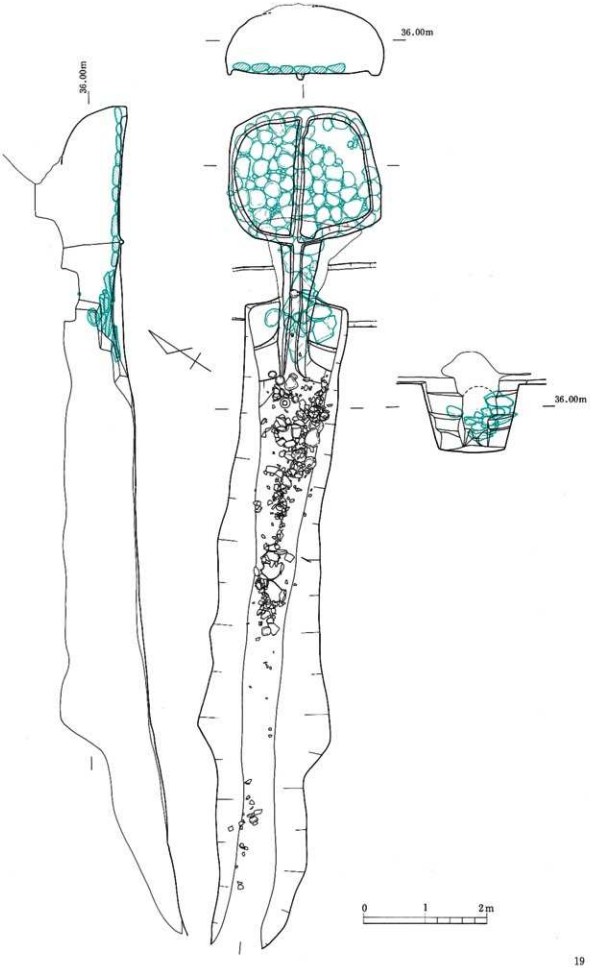
b）墓道内埋土　墓道内の堆積土壌は切り合い及び後世の撹乱等で、層区分が複雑な部分もあり困難を極めたが、全体で6層群15層に分層した。以下堆積順に説明を加えたい。

第1層群（Ⅹ～ⅩⅤ層）は、基盤層で構成されており、墓道全体に堆積する。羨門部付近は追葬時に整地されており、約5～25cm程度の層厚を測る。本層群はさらに2層に分層できる。下層（ⅩⅤ層）は基盤層を利用した埋土であり、層厚は5～10cmを測る。上層（ⅩⅢ～ⅩⅣ層）は墓道全体に堆積していて、若干風化傾向が認められる。最大厚で約20cmを測るが、羨門部付近はカットされていてほとんど残存しない。本層群を初葬時の墓道内埋土と推定している。

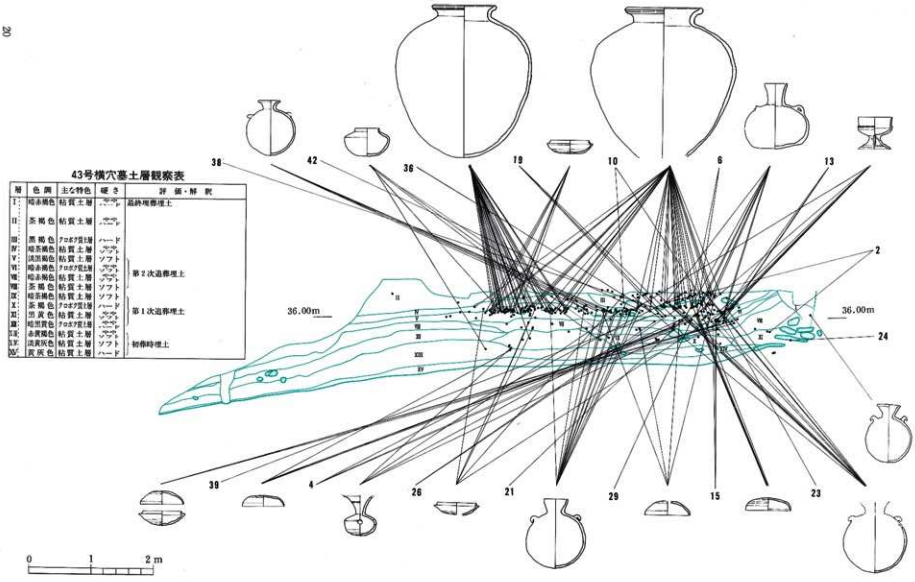
第2層群（Ⅸ～ⅩⅡ層）は、閉塞施設の下半分を覆い、墓道全体に堆積している。本層群はさらに、2層に分層できる。上面の層は風化現象がみられる。羨門部付近は次回の埋葬時に切り込まれている。墓道入口付近で土器の"一括埋置"の状況が認められた。本層群を第1次追葬時の墓道内埋土と推定している。

第3層群（Ⅵ～Ⅷ層）は、閉塞施設を覆い隠す様に堆積している。上面は風化がかなり進んでいる。羨門部から1.5m付近で"配列埋置"の状況が、2.5m付近で土器の"一括埋置"の状況がそれぞれ認められた。本層群を第2次追葬時の墓道内埋土と推定している。

第4層群（Ⅲ～Ⅴ層）は、墓道中央から入口にかけてレンズ状に堆積している。層厚は20cm前後で掘り込まれた状況で堆積している。この土層中から須恵器の"配列埋置"、"一括埋置"、"破砕散布"の状況が認められた。本層は土層観察の結果から、直接の埋葬行為には伴わない祭祀儀礼に供なう墓道内埋土と推定している。



第248図　43号横穴墓平・断面図



層	色調	主な特色	硬さ	詳細・解釈
I	暗赤褐色	粘質土層	ソフト	最終埋葬埋土
II	茶褐色	粘質土層	ソフト	
III	黒褐色	ブロック堆積	ハード	第2次追葬埋土
IV	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	
V	淡黒褐色	粘質土層	ソフト	
VI	暗赤褐色	ブロック堆積	ソフト	
VII	暗赤褐色	粘質土層	ソフト	
VIII	茶褐色	粘質土層	ソフト	
IX	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	
X	茶褐色	ブロック堆積	ハード	第1次追葬埋土
XI	黒灰色	粘質土層	ハード	
XII	暗黒褐色	ブロック堆積	ソフト	
XIII	赤黄褐色	粘質土層	ソフト	
XIV	淡黄灰色	粘質土層	ソフト	初葬時埋土
XV	黄灰色	粘質土層	ハード	

第249図　43号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

第５層群（Ⅰ層）は、墓道前面を約50°の傾斜角で羨門部へと切り込んでいる土層である。本層群を最終埋葬時の墓道内埋土と推定している。

第６層群（Ⅱ層）は、県道敷設の際に生じた二次堆積土或いは攪乱土であり、本横穴墓の墓道内埋土に直接関わるものではない。

本横穴墓は土層観察の結果、最低４度の埋葬行為と１度の埋葬に関わらない祭祀儀礼が行われたと推定される。

２）羨道、玄室

羨道部は羨門で幅0.5ｍ、玄門で幅0.65、長さ0.82ｍを測る。床面は安山岩板石３枚が敷かれており、敷石下面は約８°前後の緩い傾斜で玄室に向って下降し、玄門部分で最深となる。天井部は削平されているため、高さ・傾斜の角度等は計測不能であった。羨門部は埋土及び二次堆積土で埋没している。

玄室は天井部の一部に崩落が認められるが、ドーム形を呈していたと推定される。高さは復元による推定であるが、１ｍ前後であろう。長さは2.14ｍ、幅2.45ｍで略方形を呈している。床面は全面に偏平な河原円礫を敷きつめているが、一部攪乱により排除されている。さらに円礫の隙間を直径10cm前後の小型円礫で補塡している。敷石除去後の床面は標高35.5ｍ前後で、奥壁に向って若干の傾斜はあるもののほぼ平坦である。また幅20cm、深さ10cm前後の排水溝が周壁及び中央に設けられている。排水溝はさらに前庭部まで伸びている。

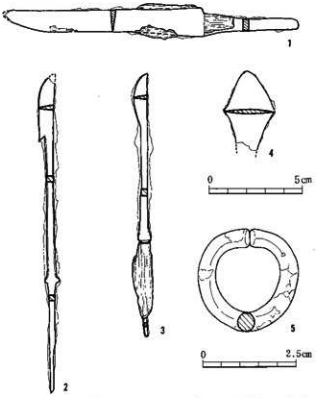
３．遺物の出土状況

１）玄室内

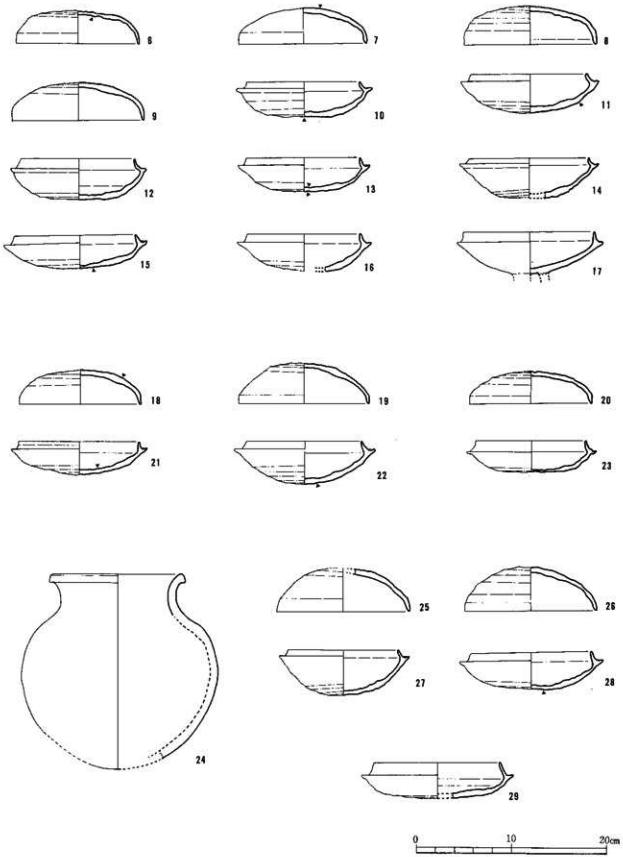
玄室内からは、鉄製品が検出された。鉄製品は鉄鏃が３本で、２本（第250図２・４）は右側壁中央付近の排水溝の中から先端を東に向けて検出された。１本（第250図３）は奥壁右隅の排水溝の中から先端を北東に向けて検出された。また、埋土中より耳環１点（第250図５）も検出された。

２）墓道内

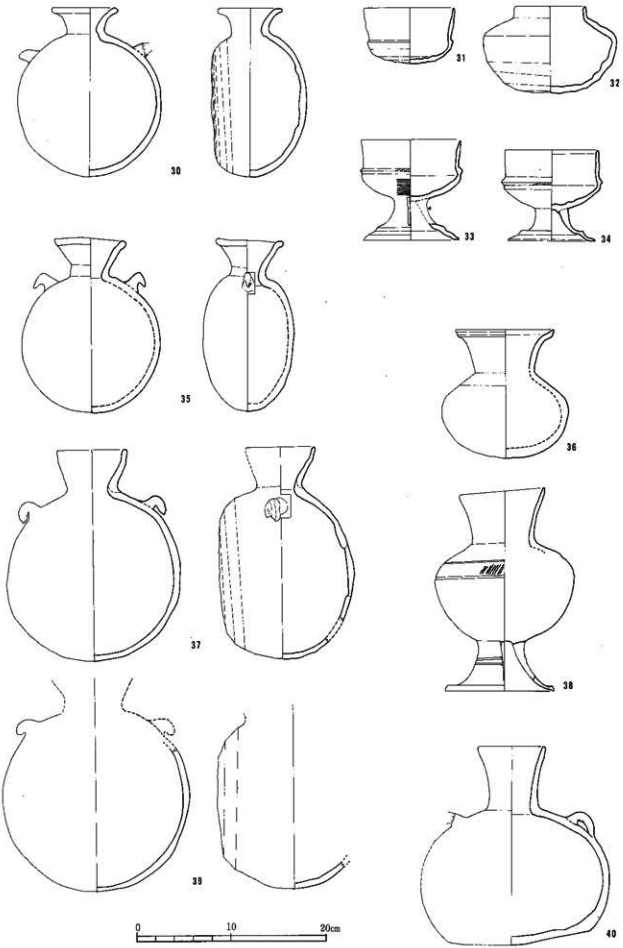
墓道内埋土からは、ほぼ全面にわたって遺物が検出されたが、なかでも４カ所で集中的に遺物の出土する地点がみられた。この４カ所をＡ～Ｄ群とし、土層観察と照らし合わせてみる。Ａ群は第２層群の墓道入口付近に位置し、須恵器の壺・坏等（第251図24～29）が“一括埋置”の状態で検出された。Ｂ群は第２層群の墓道中央付近に位置し、ほぼ1.5ｍの範囲内で“一括埋置”の状態で検出された。検出した遺物は須恵器の瓶・提瓶・大甕等（第252図30、35、37、第253図46、第254図50）である。この部分は下層を若干掘り込んでおり、遺物埋置後に埋土を行った痕跡がうかがえる。焼土・木炭等の検出は無かった。Ｃ群は羨門から1.5ｍ程離れた位置の第４層群から検出された。標高は35.9ｍ前後で須恵器の坏身・壺のセット（第251図18～23）が“配列埋置”の状態で検出された。Ｄ群は、Ｃ群から１ｍほど西へ行った位置で須恵器の瓶・提瓶・坏等（第251図６～11、第253図45）が“一括埋置”の状態で検出された。さらに、第４層群には大甕の破砕散布（第254図51）が認められた。（友岡信彦）



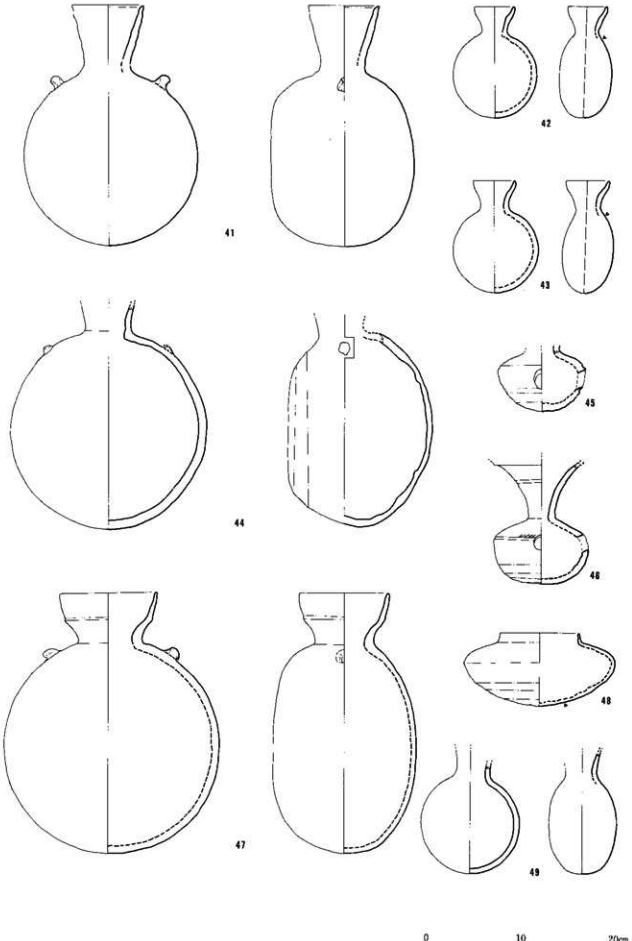
第250図　43号横穴墓出土遺物実測図(1)



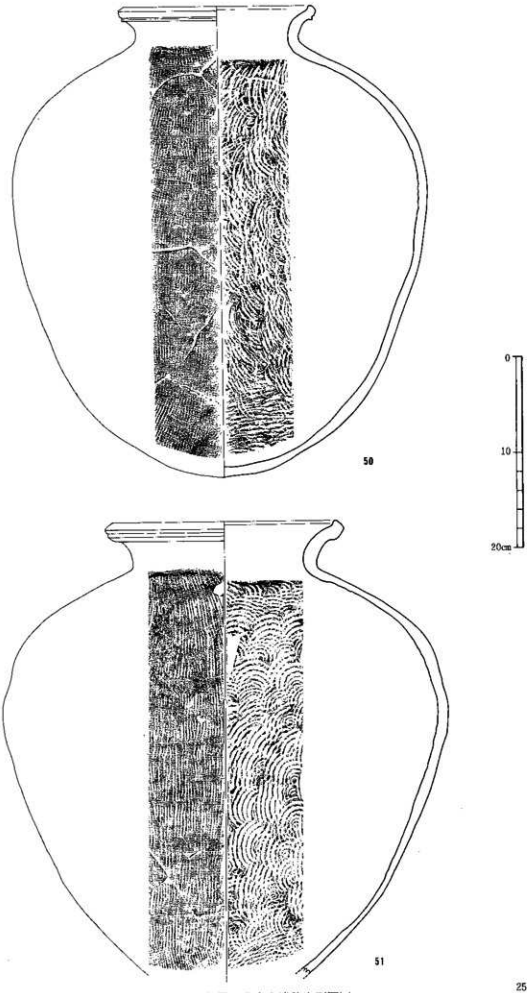
第251図　43号横穴墓出土遺物実測図(2)



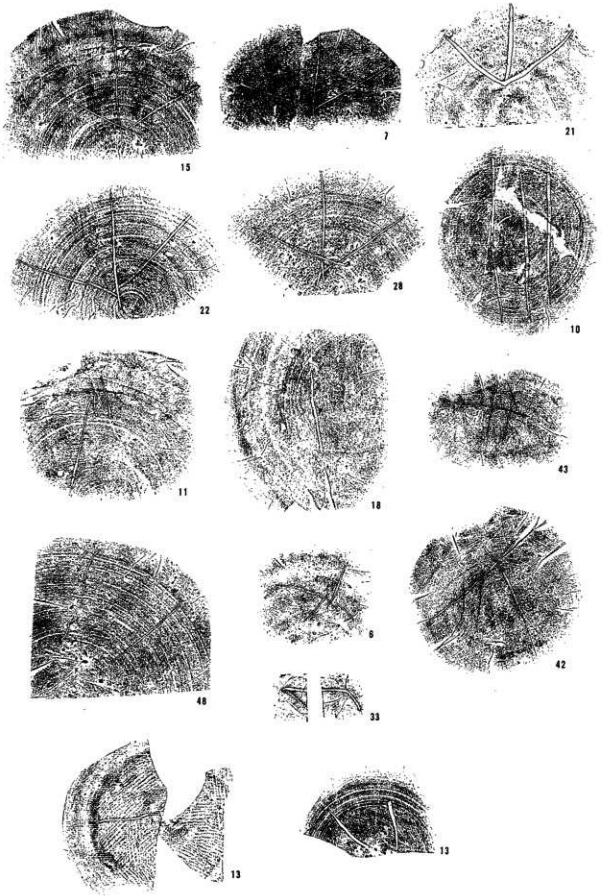
第252図　43号横穴墓出土遺物実測図(3)



第253図　43号横穴墓出土遺物実測図(4)



第254図　43号横穴墓出土遺物実測図(5)



第255図　43号横穴墓出土土器ヘラ記号

第95表　43号横穴墓出土土器観察表

（単位：cm）

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
6	坏蓋	・13.2 ・3.4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は低く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～1.5mm の白色砂粒を少量含む	良好		内面天井部「✚」
7	坏蓋	・13.5 ・3.8	口縁部は直下にのび、端部は丸い。天井部はやや低く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 静止ヘラケズリ	青灰色	細砂粒を含む	良好		外面天井部「小」
8	坏蓋	・14 ・4.1	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰黒色	細砂粒を含む	良好		
9	坏蓋	・14 ・4	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや低く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5mm 前後の白色砂粒を少量含む	良好		
10	坏身	・12 ・3.7 ・14.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は浅く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡黄灰色 淡黒灰色	細砂粒を含む	良好		外面底部「Ⅱ」
11	坏身	・12.5 ・4.1 ・14.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は肥厚しながら上外方にのび、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1～2.5mm の石英粒をやや多量に含む	良好		外面底部「戸」
12	坏身	・12 ・4.3 ・14.4	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は浅くやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	石英粒を含む	良好		
13	坏身	・12 ・3.5 ・14	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色 灰色	細砂粒を含む	良好		内面底部「↓」 外面底部「U」
14	坏身	・12.8 ・4.2 ・14.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色 黒灰色 灰色	細石英粒を多量に含む	良好		
15	坏身	・12.8 ・3.6 ・15.1	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色	黒色砂粒を含む	良好		外面底部「小」
16	坏身	・12.2 ・3.8 ・14.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや浅く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1mm前後の白色砂粒を含む	良好		
17	高坏	・14 ・4.8 ・15.6	たちあがりは直立ぎみにのび、端部は丸い。受部はほぼ水平にのび、端部は丸い。3方向からのスカシがある。	回転ナデ	回転ナデ	灰色	1～2mmの灰色砂粒を少量含む	良好		
18	坏蓋	・13 ・3.6	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	0.5～1mm の白色砂粒を少量含む	良好		外面天井部「I」

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
19	坏蓋	・14 ・4.3	口縁部は外反しながらほぼ直下にのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	1－1.5mmの白色砂粒を少量含む	良好		
20	坏蓋	・13 ・3.4	口縁部は外反しながら直下にのび、端部は丸い。天井部はやや低く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	細砂粒を含む	良好		
21	坏身	・12.7 ・3.4 ・14.4	たちあがりは短くほぼ直立してのび、端部は丸い。受部は細く上外方にのび、端部は丸い。底部はやや浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	白色砂粒を多量に含む	良好		内面底部「↑」
22	坏身	・12 ・4.6 ・15	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	石英粒を含む	良好		外側底部「↑」
23	坏身	・11.6 ・3.2 ・13.7	たちあがりは内傾してのび、端部は細く丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒を含む	良好		
24	壺	・13.9 ・20.6 ・20.9	口頸部はわずかに外反しながらのび、端部はさらに屈曲し面をなす。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	石英、角閃石粒を含む	良好		
25	坏蓋	・14.2 ・4.5＋α	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	角閃石粒をやや多量に含む	良好		
26	坏蓋	・14 ・4.6	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白色	黒色砂粒を含む	良好		
27	坏身	・11.6 ・4.8 ・13.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	細砂粒を多量に含む	良好		
28	坏身	・12.8 ・3.8 ・15.2	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色	白色砂粒黒色砂粒を多量に含む	良好		外面底部「↑」
29	坏身	・13.4 ・3.8＋α ・16	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部はほぼ水平にのび、端部は丸い。底部は浅く平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡灰黄色	細砂粒を多量に含む	良好		
30	提瓶	・7 ・17.9 ・15.3	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し、両側に角状の把手がつくが右側は欠損している。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	2mm前後の石英粒を含む	良好		
31	壺	・9.6 ・5.8	口縁部はわずかに外反しながらのび、端部は丸い。外面にはっきりした稜がみとめられる。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	細砂粒を含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
32	短頸壺	・7.5 ・9.2 ・4.2	口頸部は短く直立してのび、端部は丸い。胴部はだ円形を呈し、底部は平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	黄灰色 黒灰色	石英、その他の砂粒を含む	良好		
33	脚付鉢	・10.6 ・10.6 ・10.8	口縁部は直立してのび、端部は丸い。外面ははっきりした稜がみられる。脚部は下外方にのび、さらに屈曲しながら外反し、端部は丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰白色	白色砂粒を含む	不良		外面脚部「ㅠ」
34	脚付鉢	・9.9 ・9.7	口縁部は直立してのび、端部は丸い。外面は1本の突帯がつく。脚部は下外方にのび、端部付近でさらに屈曲し丸い。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰白色	細砂粒を含む	良好		
35	提瓶	・7.7 ・18.4 ・15	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し、外面両脇に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ	灰白色 黒灰色	2～3mmの石英粒を含む	良好		
36	壺	・10.6 ・13.6 ・13.7	口頸部は外反しながらのび、端部は外皿する凹面をなす。胴部はやや偏平で、底部はやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1～4mmの白色砂粒をやや多量に含む	良好		
37	提瓶	・7.4 ・22.5 ・18.4	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈し、両脇に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色	白色砂粒を含む	良好		
38	脚付壺	・9.1 ・21.2 ・14.9	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は外面に2本の沈線がある。脚部は短く下外方にのび、端部は面をなし外面に浅い2本の沈線がある。3方向から長方形スカシがある。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目 櫛描列点文	淡黄灰色	細砂粒を含む	不良		
39	提瓶	・－ ・19＋α ・19.9	脚部は円形を呈し、外面両方に角状の把手がつくが1方は欠損している。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰青色 灰白色	精緻	良好		
40	壺	・7.4 ・21 ・20.1	口頸部はやや長く外反しながらのび、端部は丸い。胴部は平らで両脇に把手がつく。底部は平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	1mm前後の白色砂粒を少量含む	良好		
41	提瓶	・7.6 ・18.6 ・25.4	口頸部は外反しながらのび、端部は内傾する面をなす。胴部は円形を呈し、外面両脇に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰青色 灰白色	1～2mmの細砂粒を含む	良好		
42	提瓶	・4.3 ・11.8 ・9	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色 褐色	0.5－1mmの白色砂粒を含む	良好		外面脇部「X」
43	提瓶	・4.4 ・11.8 ・9.2	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色 褐色	0.5mm前後の砂粒を含む	良好		外面脇部「#」

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
44	提瓶	・— ・23.5＋α ・21.2	口頸部は外反しながらのびる。胴部は円形を呈し、外面肩部に角状の把手が欠損した痕跡がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	黄褐色	細砂粒を含む	不良		
45	壺	・— ・6.3＋α ・9.3	胴部は楕円形を呈し、外面上方に1本の沈線があり、中央部に穿孔がある。	回転ナデ	回転ナデ ヘラ切り後 回転ナデ 櫛描列点文	灰色	細砂粒を含む	良好		
46	壺	・— ・13.2＋α ・10	口頸部は外反しながらのび、外面上方に2本の沈線がある。胴部は楕円形を呈し、外面上方に1本の沈線があり、やや上方に穿孔がある。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	精緻	良好		
47	提瓶	・9.2 ・27.5 ・22.8	口縁部は外反しながらほぼ中央部で屈曲してのび、外周に稜をなし、端部は丸い。胴部は円形を呈し、外面肩部に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	灰色	角閃石、その他の砂粒をやや多量に含む	良好		
48	短頸壺	・8.2 ・7.9	たちあがりは短く直立してのび、端部は丸い。胴部の最大径はやや中央部にある。底部はやや凹く丸い。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 灰褐色 黒灰色	1～2mmの細砂粒を含む	良好		外面底部「月」
49	提瓶	・— ・12.9 ・10.5	口頸部は外反しながらのび、胴部は円形を呈す。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	0.5～1mmの砂粒を含む	良好		
50	壺	・21 ・48.5 ・22.1	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し、段をなして下方に沈線がある。胴部の最大径は上方にある。底部はとがりぎみで丸い。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ タタキ後 回転カキ目	青灰色 明青灰色	精緻	良好		
51	壺	・23.4 ・48＋α ・46.4	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し内面に段をなす。胴部の最大径は上方にある。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ 回転カキ目 平行タタキ 後回転カキ目	青灰色	1～3mm大の石英粒を多量に含む	良好		

第96表　43号横穴墓出土鉄器観察表

（単位：cm）

番号	器種	全長	頭部長（刀部）	刃幅	頭幅	刃部厚	頭厚	備考
1	刀子	15.4	10.3	1.2	0.65	0.2	0.3	木質鞘桥の残存　墓道
2	鉄鏃	16.6以上	3.4以上	0.7	0.4	0.25	0.3	
3	同上	13.9	2.6	0.75	0.4	0.2	0.35	樺樹皮巻き残存
4	同上	4.2以上	4.2以上	2.8	不明	0.2	不明	

第97表　43号横穴墓出土耳環計測表

（単位：mm，g）

番号	作り	外径	断面径	重量	備考
5	不明	27×27	5×5	3	もろい

44号横穴墓

1．立地、調査前の状況

44号横穴墓は、北支群の東南側に位置し、斜面中位にあり、南西方向に開口する。開口部の標高は、約33m前後である。全長は約5.36mを測り、主軸はN－56.5°－Eにとる。調査前の状況は、近年の造成、民家の建設などによって玄室天井部が、陥没し横穴墓の存在を示す落ち込みが認められた。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、上部のテラス状遺構の検出を行った。テラス状遺構は、民家の建設によって攪乱されており、確認できなかった。

2．規模、構造

1）前庭部、羨門部

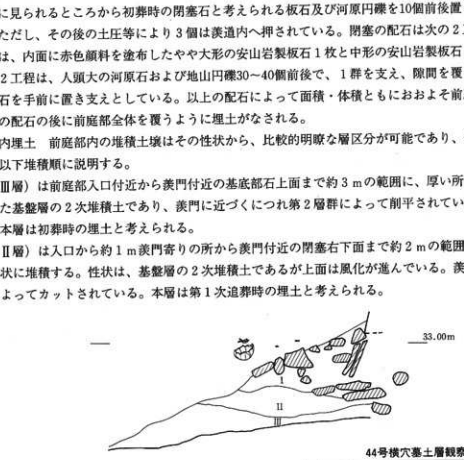
a）規模、構造　前庭部は長さ2.91m、幅は入口付近で0.5m、羨門付近で0.55mを図る。前庭部床面はゆるい凹凸があり、羨門に向って1～2°の傾斜で上る。側壁の傾斜は、両壁とも約70°を測るが、羨門付近に最大幅0.4m前後、長さ1.4～1.8mの逆三角形状のテラスを造り出しており、前庭部床面とは0.4～0.5m程の段差がある。羨門部は完全に落盤しており、形状等不明である。

閉塞施設は、最終埋葬時の様相であり、板石と河原円礫を用い、入念に構築されている。まず羨門の下部に赤色顔料が下面に見られるところから初葬時の閉塞石と考えられる板石及び河原円礫を10個前後置き、閉塞の基底部を整える。ただし、その後の土圧等により3個は羨道内へ押されている。閉塞の配石は次の2工程に分けられる。第1工程は、内面に赤色顔料を塗布したやや大形の安山岩製板石1枚と中形の安山岩製板石2枚を使用し羨門を覆う。第2工程は、人頭大の河原石および地山円礫30～40個前後で、1群を支え、隙間を覆う。その際、やや大形の川原石を手前に置き支えとしている。以上の配石によって面積・体積ともにおおよそ前庭部の約半分程度が埋る。この配石の後に前庭部全体を覆うように埋土がなされる。

b）前庭部内埋土　前庭部内の堆積土壌はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり、全体で3層群に分層できた。以下堆積順に説明する。

第1層群（Ⅲ層）は前庭部入口付近から羨門付近の基底部石上面まで約3mの範囲に、厚い所で約40cm程レンズ状に堆積した基盤層の2次堆積土であり、羨門に近づくにつれ第2層群によって削平されている。下層程固く締っている。本層は初葬時の埋土と考えられる。

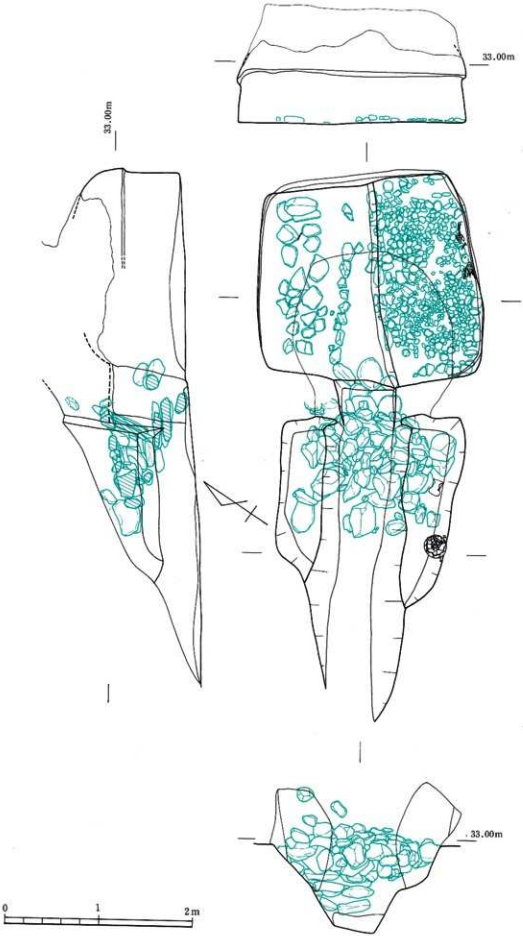
第2層群（Ⅱ層）は入口から約1m羨門寄りの所から羨門付近の閉塞右下面まで約2mの範囲に、厚い所で約35cm程レンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積土であるが上面は風化が進んでいる。羨門に近づくにつれ第1層群によってカットされている。本層は第1次追葬時の埋土と考えられる。



44号横穴墓土層観察表

層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
I:	暗茶褐色	粘質土層	ソフト	最終埋葬埋土
II:	茶褐色	粘質土層	ソフト	追葬時埋土
III:	灰黄褐色	粘質土層	ハード	初葬時埋土

第256図　44号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図



第257図　44号横穴墓平・断面図

第３層群（Ⅰ層）は入口から約1.5ｍ羨門寄りの所から閉塞石全体を覆うように約1.5ｍの範囲に、厚い所で約80cm程三角形状に堆積する。性状は、基盤層の２次堆積土であるが上面は若干風化が進んでいる。本層最上面で須恵器の壺が検出された。本層は最終埋葬時の埋土と考えられる。なお、前庭部の最上面に形成される風化の著しい層は、民家建設時の撹乱によって消失している。

以上の土層観察結果から本横穴墓では少なくとも３度の埋葬が行われたと推定される。

２）羨道、玄室

羨道部は床面で長さ0.41ｍ、玄門幅0.66ｍを測る。床面はほぼ水平に玄室に向い、玄室とは約15cm程の段を設けている。天井は、崩落し形状等不明である。玄室は長さ2.04ｍ、最大幅2.38ｍの隅丸長方形を呈している。天井は中央付近が大きく崩落しており、高さは不明であるが、形態はドーム状を呈し側壁および奥壁と天井部との境に鴨居状の段をめぐらしている。床面には５cm前後の埋土を前面に行い、その後両側壁に接して礫床を設けている。奥壁に向って右側礫床は長さ約２ｍ、幅１～1.2ｍを測り、床面を約５～８cm程高くベッド状に造り出している。床面全体に直径５cm以下の川原小円礫を主体に一部人頭大の川原円礫を敷きつめている。奥壁と右側壁のコーナー際に長さ25cm、幅15cm前後の河原円礫を２個並べ石枕としている。

左側の礫床は長さ約1.6ｍ、幅約0.7ｍを測り、床面には人頭大の河原円礫を並べている。奥壁と左側壁のコーナー際に長さ30cm、幅20cm前後の河原円礫を１個重ね石枕としている。

３．遺物の出土状態

１）玄室内

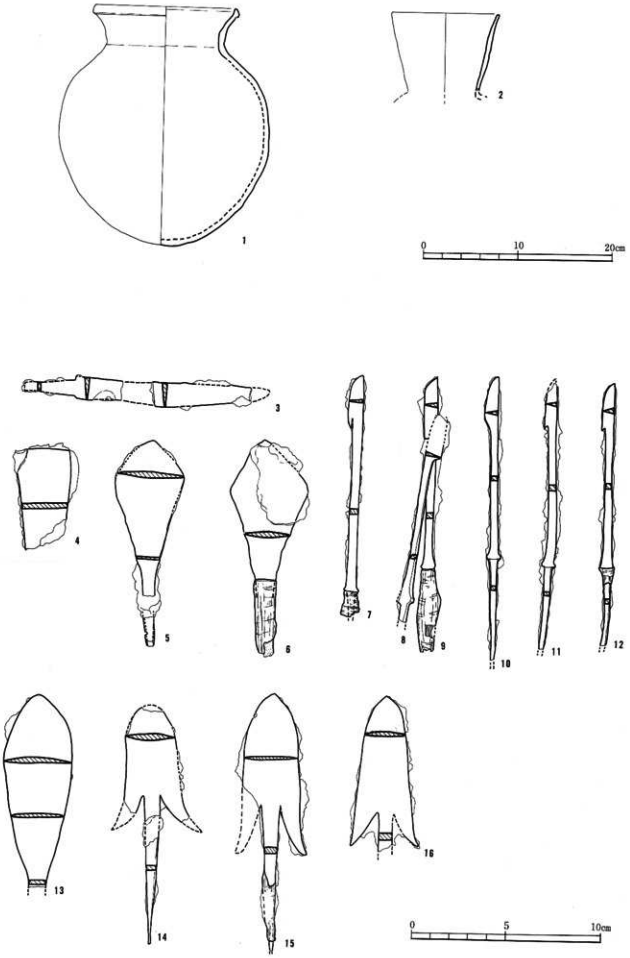
玄室内には天井部の崩落土がかなり見られたがほぼ原位置で遺物が検出された。まず、右礫床では右側壁際やや奥壁寄りで刃先を羨道方向に向けた鉄鏃群（第258図４～６、13～15）およびこの群よりやや羨道寄りで刃先を羨道に向けた鉄鏃群（第258図７～12、16）を検出した。また左礫床では、中央奥壁寄りに刃先を羨道に向けた刀子１本（第258図３）を検出した。

２）前庭部内

前庭部の遺物出土層位については埋土の項に示したので、ここでは出土状況について述べる。

前庭部ほぼ中央の右側テラス部分において横転した状態で土師器長頸壺（第258図２）が、これより約50cm程入口方向で正置した状態の須恵器小甕（第258図１）がそれぞれ検出された。いずれも出土層位から最終埋葬時のもので、特に小甕は最終閉塞埋土後に据え置かれたものである。

なお、土師器長頸壺は調査中に盗難に会い口縁部のみが残った。（村上久和）



第258図　44号横穴墓出土遺物実測図

第98表　44号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
1	甕	・14.9 ・25 ・22.4	口縁部は外反しながらのび、端部は面をなし丸い。胴部はほぼ円形を呈す。底部は丸みをおびる。	器面が磨滅しているため調整不明	器面が磨滅しているため調整不明	淡緑灰色	1～3㎜の石英粒を含む	不良		
2	壺	・11.6 ・8.2＋α	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。	ヨコナデ	器面が磨滅しているため調整不明	明橙色	1～2㎜の石英粒を少量含む	良好	土師器	

第99表　44号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頭部長(刀部)	刃幅	頭幅	刃部厚	頭厚	備考
3	刀子	10.7以上	5.2以上	1.2	0.7	0.3	0.2	
4	鉄鏃	5.1以上	5.1以上	3.1	不明	不明	不明	
5	同上	11.0以上	7.0	3.6	不明	0.3	不明	
6	同上	11.5	7.4	3.6	不明	0.2	不明	桜樹皮巻残存
7	同上	13.7	2.8	0.8	0.5	0.2	0.3	同上
8	同上	11.0以上	2.5	0.8	0.4	不明	0.3	
9	同上	14.5以上	3.2	0.8	0.4	0.2	0.25	桜樹皮巻残存
10	同上	14.9以上	2.4	0.7	0.4	0.3	0.3	
11	同上	14.0以上	2.3	0.7	0.5	0.25	0.3	
12	同上	13.8以上	2.6	0.6	0.5	0.2	0.3	
13	同上	10.1以上	9.0	3.7	1.0	0.3	0.35	
14	同上	12.6以上	6.0以上	2.8	0.7	0.3	0.35	
15	同上	13.6以上	8.4	3.0	0.7	0.2	0.3	木質残存
16	同上	8.2以上	7.8	2.8	0.7	0.3	0.4	

45号横穴墓

1．立地、調査前の状況

45号横穴墓は、北支群の南側斜面上方に位置し、ほぼ西方向に開口する。開口部の標高は、約34.5mで、全長は、10.47mを測る。墓道主軸はN－33°－Eにとり、玄室主軸は、墓道主軸に対して10°程北に屈曲する。調査前の状況は、近年の造成が墓道入口付近で認められたが、おおむね良好であった。調査は、墓道プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査を行った。閉塞施設の除去後、玄室内の崩落土等の除去作業を行い、遺物・礫床等の検出を実施した。

2．規模、構造

1）墓道、羨門部

a）規模、構造　墓道部は長さ7.25m、幅は墓道入口で約0.65m、羨門付近で底面幅1.18mを測る。墓道床面は、わずかに凹凸を持ちながら約6～10°の傾斜で羨門に向って上がる。墓道奥壁部は約70°の傾斜であり、側壁は80°の傾斜である。奥壁部の高さは現状で約1mを測る。

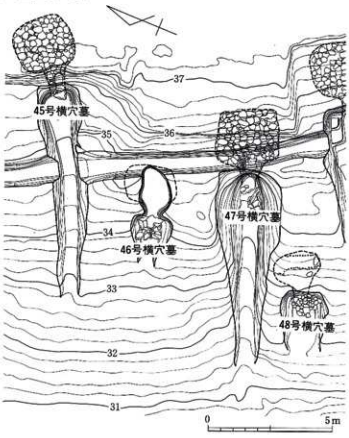
羨門入口部分は天井部の崩落が著しく保存状態は悪い。羨門は床面幅60cmで、高さは不明である。床面のほぼ中央に幅18cm、深さ5cmの玄室内から続く排水溝が造られている。なお、この排水溝は墓道部に向って1.4m程続いている。

閉塞施設は、追葬時の状況で2次的に動かされており羨門下半のみを覆っている。人頭大の河原円礫3個と板石2個で構成されており、この礫群はⅨ層中に含まれる状況から、最終埋葬時の閉塞は木板等を使用したと考えらる。

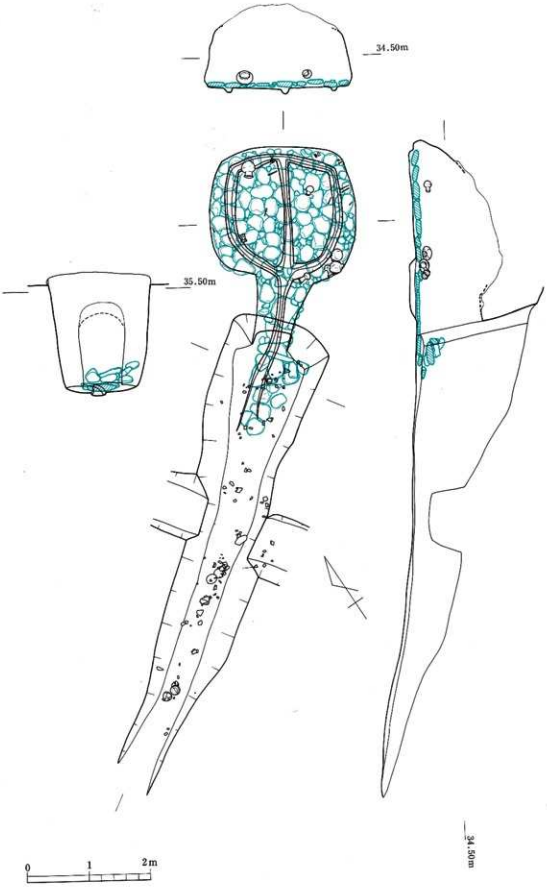
b）墓道内埋土　墓道内の堆積土壌は4層群12層に区分された。

第1層群（Ⅹ～ⅩⅡ層）は墓道下半部の主要埋土であり、羨門より墓道方向へ約70cmの地点から墓道入口付近まで凸レンズ状に堆積している。最も厚い所で約20cmを測る。墓道中央付近から羨門方向は第2層群によって上面をカットされている。溝蓋石を包含する。本層はさらに2層に分離される。下層より(1)基盤層の2次堆積土で固く締っている。上層とは漸移的に変化する。（ⅩⅡ層）。(2)基盤層の2次堆積土であるが上面程風化が著しい。（Ⅹ・ⅩⅠ層）。本層群は初層時の墓道埋土と考えられる。なお、本層群中に帰属する明確な遺物は認められない。

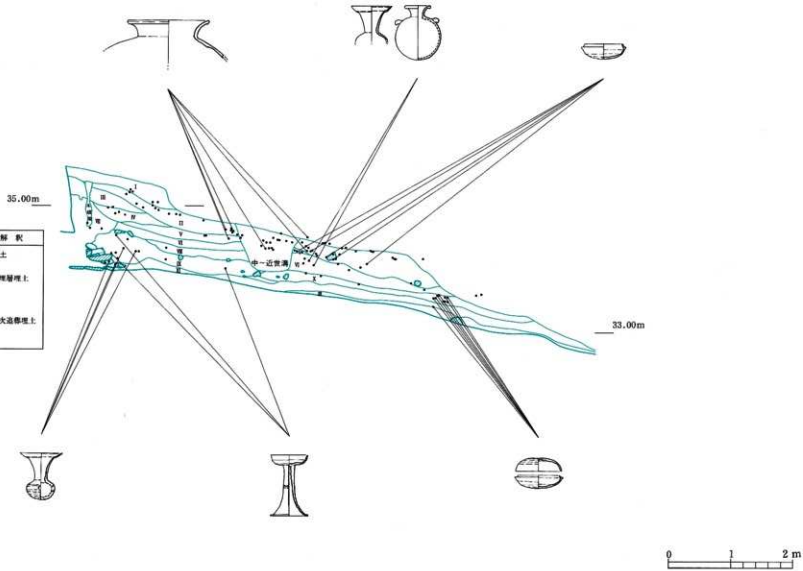
第2層群（Ⅵ・Ⅶ・Ⅸ層）は墓道中半部の主要埋土であり羨門付近より墓道入口付近までほぼ水平に堆積している。最も厚い所で約40cmを測る。墓道中央では1号溝に、羨門付近では第3層群によってそれぞれカットされている。閉塞石を包含する。本層群はさらに3層に分離される。下層より(1)基盤層の2次堆積土で固く締っている。上層とは漸移的に変化する。層中に坏壷身の一括埋置（第262図7～8）および高坏（第262図4）、甕（第



第259図　45号横穴墓周辺平面図



第260図　45号横穴墓平・断面図



45号横穴墓土層観察表

層	色調	土な特色	硬さ	評価・解釈
I:	黒褐色	粘質土層	ハード	墓前儀礼埋土
II:	黄茶褐色	粘質土層	ハード	
III:	暗褐色	粘質土層	やや ハード	用層と最終埋層埋土
IV:	明黄褐色土	粘質土層	ソフト	
V:	茶褐色	粘質土層	ハード	
VI:	暗褐色	粘質土層	ハード	
VII:	黒茶褐色土	粘質土層	ソフト	
VIII:	暗黄褐色	粘質土層	やや ハード	用層と第1次造墓埋土
IX:	茶褐色	粘質土層	ハード	
X:	暗褐色	粘質土層	ソフト	初葬埋土
XI:	赤褐色	粘質土層	ソフト	

第261図　45号横穴墓縦断土層及び遺物垂直分布図

262図３)、甕胴部片の破砕散布が認められた（Ⅸ層)。上・下層の漸移層で性状等は下層と同じであるが、若干風化する（Ⅷ層)。(3)基盤層の２次堆積土で風化の著しいものである。層中に提瓶２個（第262図５、６）と瓿（第262図２）の一括埋置が認められた（Ⅵ層)。本層群は、第１次追葬時の埋土と考えられる。

第３層群（Ⅲ～Ⅴ・Ⅶ層）は羨門より墓道中央付近まで堆積している。最も厚い所は羨門付近で、約１ｍ程堆積する。墓道中央付近では１号溝に、羨門付近では上層風化土層を第４層群によってそれぞれカットされている。本層群はさらに３層に分離される。下層より(1)精微な基盤層の２次堆積土である。羨門部全体を覆う最終埋積時の閉塞埋土である（Ⅶ層)。(2)基盤層の２次堆積土で下層（Ⅵ層）とは整合面をなし、上層とは漸層的に変化する。層中上面に若干の甕胴部片が認められた（Ⅳ・Ⅴ層)。(3)基盤層の２次堆積層で風化の著しいものである（Ⅲ層)。本層群は最終埋葬時の埋土と考えられる。

第４層群（Ⅰ・Ⅱ層）は羨門上面から墓道中央よりやや入口に近い最も厚い場所で50cm程堆積している。上面を近年の造成により、墓道中央付近を１号溝によってそれぞれカットされている。本層群はさらに２層に分離される。下層より(1)基盤層の２次堆積土でⅢ・Ⅳ層をカットして堆積する（Ⅱ層)。層中に坏身（第262図１）及び甕（第262図10）が破砕散布状態で検出された。なお甕片は42号、43号横穴墓出土の甕片と接合関係が認められる。(2)精微な基盤層の２次堆積土で著しく風化が進んでいる（Ⅰ層)。本層群は埋葬後の祭祀儀礼に関わる埋土と考えられる。

以上、墓道埋土の観察結果から本横穴墓では、最低３回の埋葬行為と最低１回の埋葬に関わらない祭祀儀礼行為が行われている。

２）羨道、玄室

羨道は長さ約1.1ｍ、玄門幅0.95ｍと羨門幅よりやや広くなる。玄室は長さ約2.1ｍ、裾部幅約2.0ｍ、中央最大幅約2.4ｍ、奥壁幅1.9ｍのやや胴張りの隅丸方形を呈す。壁のコーナー部分が丸くおさめられ壁間の境は明瞭でない。床面には幅15cm、深さ10cm前後の排水溝が周壁および中央に設けられている。中央の溝は玄門付近で周壁溝と合流し、羨道・羨門中央を経て前庭部まで延びている。羨道、玄室床面はほぼ平坦であり、全体に人頭大の河原石を敷きつめている。この敷石の構築順序は、まず中央の排水溝上を前庭部まで配石し、その後左右に広げるように行っている。なお、右側壁の中央およびやや奥壁に寄った所に河原石をそれぞれ１個づつ重ね枕石とする。天井部は玄室、羨道とも大きく崩落しており、高さは不明である。ドーム状を呈すと考えられる。

２．遺物の出土状態

１）玄室内

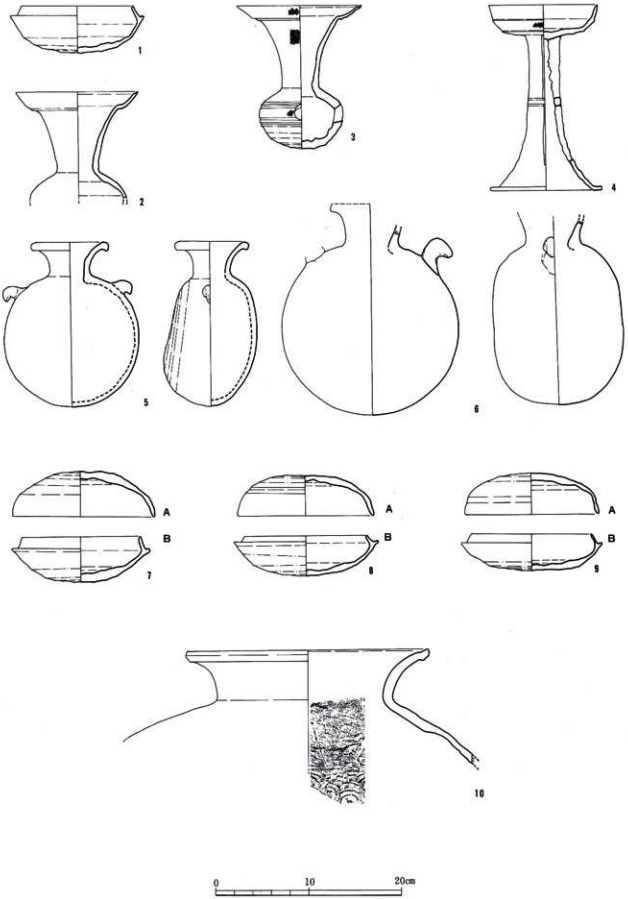
玄室内には大量の落盤土が見られたが、遺物はほぼ原位置で検出された。まず、土器は玄門付近右裾側で須恵器長頸坩（第263図12）が、右裾と右側壁コーナーで須恵器提瓶２個と瓿（第265図11、15、16）が、中央奥壁寄りの右側壁側で須恵器長頸坩（第263図14）が、中央玄門寄りの左側壁側で土師器小型器台（第263図13）が、奥壁ぎわの左側壁側で須恵器壺がそれぞれ検出された。鉄器は中央右側壁ぎわの敷石下で刀子および鉄鏃（第264図26、28～30）が、奥壁と右側壁のコーナー付近で鉄鏃（第264図19、20、23）が、中央左側壁側で鉄鏃（第264図24)、中央奥壁ぎわの左側で鉄鏃および刀子（第264図18、21、22、25、27、31、32）がそれぞれ検出された。

なお、左側壁側で発見された土師器小型器台は口縁部および脚部の一部を欠損したものである。これは時期的には４Ｃ中頃を前後するものであり、本横穴墓の築造時期とは全く違う遺物である。さらに、本横穴墓周辺にもこの時期に該当するような遺構は認められない。どのような経路をへて本横穴墓に副葬されたかさだかでない。

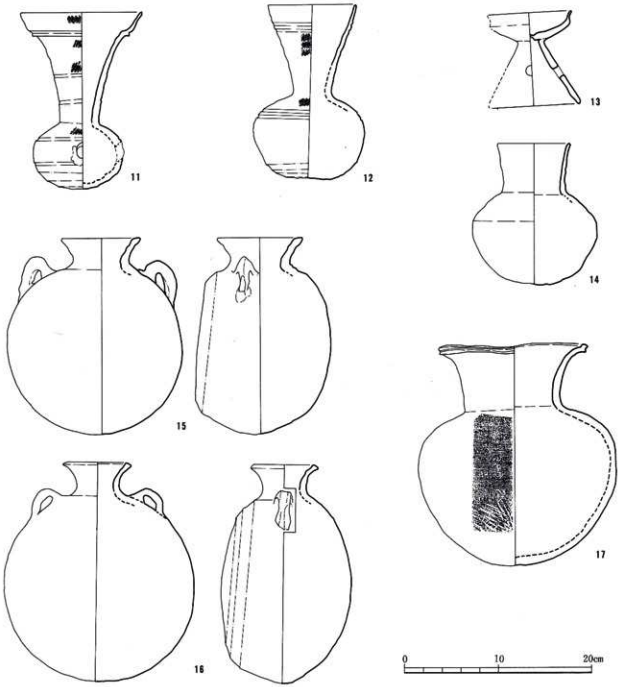
２）墓道内

墓道内の遺物の出土層位については、墓道埋土の項で示した。ここでは出土状況について述べる。

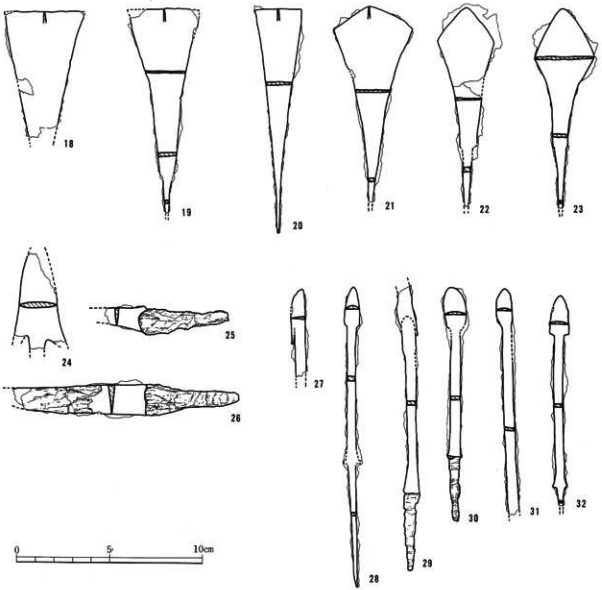
墓道入口より約1.5ｍ羨門方向のほぼ中央に須恵器坏蓋・身が３対（第262図７～９）一括埋置状態で検出された。墓道部中央では須恵器提瓶２個および瓿（第262図２、５、６）の一括埋置状態が検出された。さらに羨門付近では、高坏、瓿（第262図３、４）の破砕散布状態と、墓道全体に甕や坏身（第262図１、10）の破砕散布状態がそれぞれ検出された。なお、前述したように甕は42号、43号横穴墓出土甕と接合する。(村上久和)



第262図　45号横穴墓出土遺物実測図(1)



第263図　45号横穴墓出土遺物実測図(2)



第264図　45号横穴墓出土遺物実測図(3)

第100表　45号横穴墓出土土器観察表

(単位：cm)

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
1	坏身	・12 ・4.8 ・14.3	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	淡黄灰色	1～2mmの石英粒を含む	良好 堅緻		
2	蓋	・13.1 ・11.6+α	口縁部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反する。端部は内傾し段をなす。	回転ナデ	回転ナデ	黄灰色	白色砂粒を多量に含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
3	壺	・13.4 ・15 ・9	口頸部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反する。端部は不明瞭な段をなす。胴部は楕円形を呈し、外面に穿孔をはさむように２本ずつ沈線がある。	回転ナデ	回転ナデ 波状文 回転ヘラケズリ	黄灰色	細砂粒を含む	良好		
4	高坏	・11.7 ・19.7	坏部の口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面に２ヶ所稜がみられる。坏部は浅い。脚部は下外方にのび、端部は面をなす。外面中央部に２本の沈線あり。長方形二段スカシがある。	回転ナデ	回転ナデ 波状文	灰青色	精緻	良好		
5	提瓶	・8.4 ・17.5 ・14.5	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し丸みをおびる。胴部は円形を呈し、外面両脇に角状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	青灰色	１～３mmの白色砂粒を多量に含む	良好		
6	提瓶	・－ ・22.2 ・18.8	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなす。胴部は円形を呈し、外面両脇に角状の把手がつくが一方は欠損している。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目	褐色 赤褐色	１～２mmの白色砂粒をやや多量に含む	良好		
7－A	坏蓋	・15.2 ・4.7	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	石英粒を含むが精緻	良好 堅緻		
7－B	坏身	・12.8 ・4.8 ・14.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	石英粒、黒色砂粒を多量に含む	良好		
8－A	坏蓋	・14.4 ・4.2	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。天井部はやや高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色 青灰色	１mm大の石英粒を含む	良好 堅緻		
8－B	坏身	・13.2 ・4.2 15.5	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は上外方にのび端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	１～２mm大の砂粒を含む	良好 堅緻		
9－A	坏蓋	・14.3 ・4.4	口縁部は外反しながらのび、端部付近で肥厚し丸い。天井部は高く丸みをおびる。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰色	１mm大の石英粒を多量に含む	良好 堅緻		
9－B	坏身	・13 ・3.9 ・15.2	たちあがりは内傾してのび、端部は丸い。受部は水平にのび端部は丸い。底部は浅くやや平らである。	回転ナデ 調整ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	青灰色	１－３mm大の石英粒を多量に含む	良好 堅緻		
10	甕	・23 ・12＋α	口頸部は外反しながらのび、端部は肥厚し面をなす。	回転ナデ 同心円タタキを軽くナデ消す	回転ナデ 器面が磨滅しているため調整不明	明青灰色	0.5～2.5mmの白色砂粒をやや多量に含む	良好		
11	壺	・12.9 ・18.5 ・9.7	口頸部は外反しながらのび、端部付近でさらに外反し、その外面に１本の沈線をなす。頸部外面に２ヶ所２本の沈線がある。胴部は楕円形を呈し、外面に穿孔をはさむように２本の沈線あり。底部は丸みをおびる。	回転ナデ	回転ナデ 波状文 櫛描列点文 回転ヘラケズリ	暗紫色 赤紫色	石英粒を多量に含む	良好		

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部径	形態の特色	技法の特色 内面	外面	色調	胎土	焼成	備考	ヘラ記号の有無
12	長頸壺	・9.4 ・18.5 ・12	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。外面端部に2本の沈線がある。胴部はほぼ円形を呈し外面底部に2本の沈線がある。底部はやや平らである。	回転ナデ	回転ナデ 波状文 回転カキ目 回転ヘラケズリ	青灰色 黒灰色	石英の細砂粒を含む	良好		
13	器台	・9.1＋α ・10	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。外面は丸みをおびた後がみとめられる。細部は下外方にまっすぐのび、端部は丸い。脚部中央部に穿孔あり。	器面が磨滅しているため調整不明	器面が磨滅しているため調整不明	淡赤橙色	角閃石、その他の砂粒をやや多量に含む	良好	土師器	
14	壺	・7.7 ・14.9 ・13.4	口縁部はほぼ直立してのび、端部は丸い。胴部はやや丸みを呈し、底部も丸みをおびる。	ヨコナデ	ヨコナデ後ヘラミガキ ヘラケズリ ハケ目	黄褐色	石英粒を多量に含む	不良	土師器	
15	提瓶	・8.4 ・20.6 ・18.6	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなし丸い。胴部は円形を呈し、両肩に環状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転カキ目 回転ヘラケズリ	灰色	石英粒を含む	良好		
16	提瓶	・7.2 ・23 ・20.2	口頸部は外反しながらのび、端部は面をなす。胴部は円形を呈し、外面両肩に環状の把手がつく。	回転ナデ	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰青色 黄灰色	石英粒を含む	良好		
17	壺	・15.6 ・23.4・21	口頸部は外反しながらのび、端部は凹面をなす。胴部はほぼ内形を呈す。	回転ナデ 同心円タタキ	回転ナデ 回転カキ目 平行タタキ	灰色	精微	良好		

第101表　45号横穴墓出土鉄器観察表

(単位：cm)

番号	器種	全長	頸部長(刀部)	刃幅	頸幅	刃部厚	頸厚	備考
18	鉄鏃	6.6以上	6.6以上	4.2	不明	0.15	不明	
19	同上	10.8以上	8.7	3.8	0.4	0.15	0.2	
20	同上	11.8	7.0	2.4	0.35	0.2	0.2	
21	同上	10.3以上	8.5	4.2	0.3	0.15	0.2	
22	同上	10.5以上	7.4	2.9	0.45	0.1	0.25	
23	同上	10.5以上	7.3	3.1	0.3	0.15	0.2	
24	同上	5.0以上	4.4以上	2.0	0.75	0.2	不明	
25	刀子	6.6以上	2.2以上	0.9	不明	0.2	不明	木質柄残存
26	同上	12.0以上	7.0以上	1.6	不明	0.3	不明	木質鞘、柄残存
27	鉄鏃	4.6以上	2.9	0.75	0.5	0.2	不明	
28	同上	15.9	2.1	0.8	0.5	0.25	0.3	
29	同上	13.4以上	2.1	0.75	0.5	不明	0.25	木質残存
30	同上	12.3	2.1	1.1	0.55	0.15	0.2	木質残存
31	同上	11.9以上	1.9	0.85	0.55	0.15	0.2	
32	同上	11.1以上	2.1	1.0	0.5	0.15	0.2	

46号横穴墓

1．立地、調査前の状況

46号横穴墓は、北支群の南側に位置し、斜面上位にある。西方向に開口し、開口部の標高は約34m前後である。全長は、3.95mを測り、主軸はN－56.5°－Eにとる。調査前の状況は、近年の造成、民家の建設などによって羨道～玄室天井部が、陥没し横穴墓の存在を示す落ち込みが認められた。調査は前庭部プランの確認、同埋土の検討、閉塞施設の調査、上部テラス状遺構の検出を行った。テラス状遺構は、県道および民家の建設によって攪乱されており、確認できなかった。

2．規模、構造

1）前庭部、羨門部

a）規模、構造　前庭部は長さ1.92m、幅は入口付近で0.5m、羨門付近で1.05mを測る。前庭部床面はほぼ平坦で、羨門に向って約1～2°の傾斜で下る。側壁の傾斜は、両壁とも約50°前後を測る。羨門部は完全に落盤しており、形状等不明である。

閉塞施設は、最終埋葬時の様相であり、板石と河原瓦礫、地山礫等を用いて構築されている。まず羨門の下部に板石（赤色顔料が下面に見られることから初葬時の閉塞石と考えられる。）を1個置き、基底部を整える。閉塞の配石は次の3工程に分けられる。第1工程は、内面に赤色顔料を塗布した大形の安山岩製板石2枚を使用し羨門を覆う。第2工程は、小形の板石5個で、1群の支えとしている。第3工程は、人頭大の河原石および地山円礫15個前後で第2工程の配石や土器群を支え、隙間を覆う。以上の配石によって面積・体積ともに前庭部の約1／3程度が埋る。この配石、土器埋置後に前庭部全体を覆うように埋土がなされる。

b）前庭部内埋土　前庭部内の堆積土壌はその性状から、比較的明瞭な層区分が可能であり、全体で3層群に分層できた。以下堆積順に説明する。

第1層群（Ⅲ層）は前庭部入口付近から羨門の基底部上面まで約0.7mの範囲に、厚さ10cm前後で水平に第2層群によって削平されている。層中に土師器の配列埋置が認められた。本層は初葬時の埋土と考えられる。

第2層群（Ⅱ層）は前庭部入口付近から閉塞石まで約1.5mの範囲に厚い所で約90cm程レンズ状に堆積する。性状は、基盤層の2次堆積土であり上面が若干風化する。本層は追葬時の閉塞埋土と考えられる。

第3層群（Ⅰ層）は第2層群の上面に堆積した風化土層である。

以上の土層観察結果から本横穴墓では少なくとも2度の埋葬が行われたと推定されるとともに、配列埋置の土器群は初葬時に関わるものであることが判明した。

2）羨道、玄室

羨道部は床面で長さ2.0m、玄門幅0.56mを測る。床面はほぼ水平に玄室に向う。天井は崩落し、形状等は不明である。玄室は長さ1.6m、最大幅2.16mの平入り隅丸長方形を呈している。天井は中央付近が大きく崩落しており、高さは不明であるが、形態はドーム状を呈するものと考えられる。床面には5cm前後の埋土を行い死床面としており、礫床等特別な施設はない。両側壁および奥壁際に幅10～15cm前後、深さ5～10cm前後の壁溝を巡らしている。また、奥壁寄り右側壁付近で径15cmの範囲に赤色顔料の痕跡が認められ、頭位部分と考えられる。

46号横穴墓土層観察表

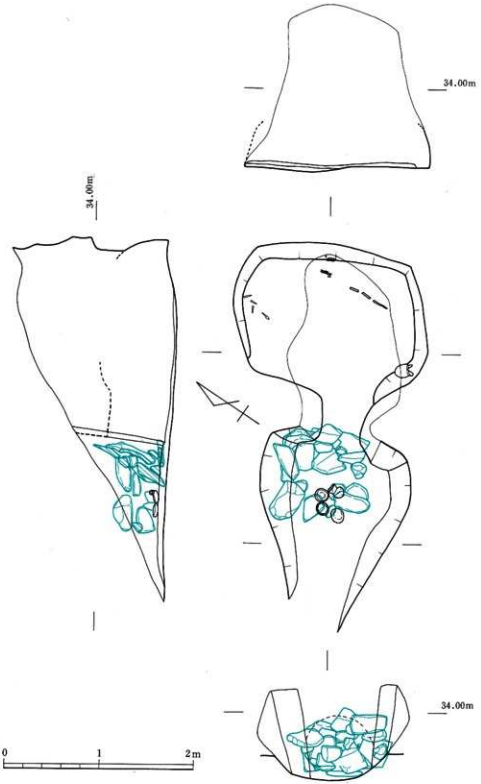
層	色調	主な特色	硬さ	評価・解釈
Ⅰ:	暗茶褐色	粘質土層	ハード	風化が進んでいる
Ⅱ:	暗茶褐色	粘質土層	ハード	追葬埋土
Ⅲ:	黄褐色	粘質土層	ハード	初葬埋土、下面に土器を含む

第265図　46号横穴墓縦断土層図

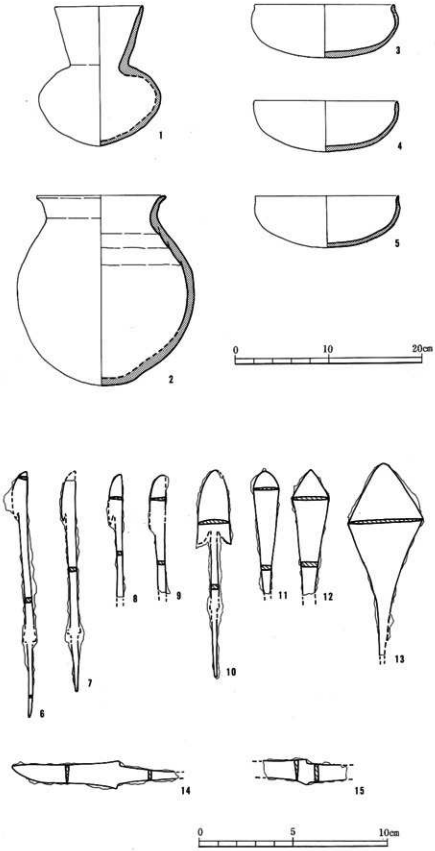
3．遺物の出土状態

1）玄室内

玄室内には天井部の崩落土がかなり見られたがほぼ原位置で遺物が検出された。まず、奥壁寄り右側壁付近の赤色



第266図　46号横穴墓平・断面図



第267図　46号横穴墓出土遺物実測図

顔料出土地点付近で折れた状態で直刀が、中央奥壁際で刀子１本（第267図14）と刃先を左側壁に向けた鉄鏃群２群（第267図６～９）を検出した。さらに、中央左側壁際に方向不定の鉄鏃４本（第267図10～13）が、右側壁と褐壁コーナー付近でススの付着した土師器甕（第267図２）が検出された。

２）前庭部内

前庭部の遺物出土層位については埋土の項で示したので、ここでは出土状況について述べる。前庭部の羨門寄り中央の閉塞石下面において土師師埴３個、同長頸坩１個（第267図１、３～５）が配列埋置の状態で検出された。羨門に向って左側２個の埴は正置に、右側の埴は伏せた状態で、長頸坩は横転した状態であった。（村上久和）

第102表　46号横穴墓出土土器観察表

（単位：cm）

番号	器種	法量 ・口径 ・器高 ・胴部最大径	形態の特色	技法の特色					備考	ヘラ記号の有無
				内面	外面	色調	胎土	焼成		
1	埴	・14.8 ・5.5 ・15.6	口縁部は内湾しながらのび、端部付近で外反し、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	回転ナデ ヘラミガキ	器面が磨滅しているため調整不明	赤褐色	石英、長石粒を含む	良好	土師器	
2	埴	・15 ・5.3	口縁部はほぼ直立してのび、端部は丸い。底部は深く丸みをおびる。	ナデ	ナデ	赤褐色	精緻	良好	土師器	
3	埴	・15 ・5.4	口縁部はほぼ直立してわずかに内湾ぎみにのびる。底部は深く丸みをおびる。	器面が磨滅しているため調整不明	器面が磨滅しているため調整不明	赤褐色 黄褐色	精緻	やや良好	土師器	
4	壺	・9.2 ・14.6 ・13	口縁部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部はよく張り、底部はとがりぎみである。	ヘラミガキ	ナデ 静止ヘラケズリの上からヘラミガキ	赤褐色	１～２mmの石英、長石粒を含む。	良好	土師器	
5	甕	・13.8 ・19.8 ・18.6	口頸部は外反しながらのび、端部は丸い。胴部はほぼ長円形を呈し、底部は丸みをおびる。	ヨコナデ	タタキ ヨコナデ	黄褐色 赤褐色	石英、角閃石、長石粒を含む	良好	土師器	

第103表　46号横穴墓出土鉄器観察表

（単位：cm）

番号	器種	全長	頭部長（刀部）	刃幅	頭幅	刃部厚	頭厚	備考
6	鉄鏃	12.8	2.4	0.8	0.4	0.2	0.25	
7	同上	11.2以上	2.1以上	0.7	0.4	不明	0.2	
8	同上	6.4以上	2.2	0.7	0.4	0.15	0.2	
9	同上	6.3以上	3.0	0.8	0.4	0.2	0.25	
10	同上	10.9	3.9	1.6	0.35	0.2	0.2	
11	同上	6.4以上	4.0	1.3	0.4	0.15	0.2	
12	同上	6.6以上	5.5	1.9	0.7	0.2	0.3	
13	同上	10.1以上	9.1	4.0	0.3	0.2	不明	
14	刀子	8.7以上	5.6	1.0	0.5	0.15	0.1	
15	同上	4.4以上	2.3以上	0.9	0.9	0.2	0.2	